



JAC北九だより

No. 99 (令和5年 第1号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakvushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部

支部長 日向 祥剛

事務局：福岡県糟屋郡篠栗町尾仲 50-17

榑 俊一 方

TEL/FAX 自宅 092-947-3208

携帯 090-8416-4194

編集人：町元 里香

印刷：山口県山口市水の上町 2-25

内藤製本所



木版画「初夏の剣岳」 2011年制作の作品にウサギを加えたもの 作：伊藤久次郎

令和5年新年のごあいさつ

北九州支部長 日向 祥剛

新年明けましておめでとうございます。旧年中は支部活動にご協力を賜り誠に有難うございました。本年も、なお一層のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

今年の干支は「みずのと卯」です。厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージだそうです。明るい希望ある年にしたいものです。

コロナに翻弄されて3年目、少しずつコロナにも慣れ国内の活動はようやくですが活発になって来たようです。サッカーワールドカップには世界中が湧きました。私たち北九州支部の活動も月例山行やポレポレ会、小倉サロンや博多サロンも再開されています。個人山行も裏銀座縦走など活発に始まっています。「一等三角点探訪の会」6人が北海道に遠征して長谷川さんたち北海道支部の方々と交流し、広島支部との交流会を九重で行いました。広島支部創立25周年式典及び祝賀会、翌日の弥山記念山行にも多くの会員が参加して多くのJACの方々との交流を深めることができました。第6回「榑有恒祭」は古野会長、坂井副会長、森前会長を始め福岡支部、東九州支部、地元の山の会など更に、毎日新聞の代表と記者も参加して碑前祭を行い、懇親会まで行いました。越後支部の「高頭祭」宮崎支部の「宮崎ウエストーン祭」にも参加しました。その結果、支部主催の山岳祭として本部から補助金が出るようになりそうです。日本山岳会の120周年記念事業として山岳古道調査が進んでいます。北九州支部は英彦山峯入り古道と求菩提山古道に決り、英彦山峯入り古道は本部報告を終えました。求菩提山調査も現在進んでおります。これからも会員皆さんの協力をお願いします。今年もまた1社でも高く、1つでも多く、1回でも多く山に登りましょう。少しでも、山に親しみ、山を愛し、山の知識を深めましょう。今年は役員の改選があります。よく考え素晴らしい支部長役員を選んで下さい。それまでは、今まで通り、会員皆様の意見を大切に、明るく、楽しい、前向きな、支部運営に努めます。よろしくお願い致します。最後に、会員皆様と北九州支部がますます発展する年となりますよう祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

第6回槇有恒碑前祭

14264 丹下 洽



槇有恒碑前祭 (写真 榊 俊一)

平成26年3月21日槇有恒の略歴碑が完成し、その除幕式が行われ、続いて平成28年5月14日第1回槇有恒碑前祭が行われた。今年で第6回目を迎える事となった。この碑前祭の発端は平成25年2月28日森武昭会友(当時本部常務理事)を風師山にご案内した折、槇さんの記念碑をご覧になり「最近の登山者は、槇さんを知らない方達が多い。淋しいことだ。何か案内板を設置したら」という事になり、地元の風師山早朝登山会の柳原さんの協力を得て設置が実現した。コロナの影響で数年規模を縮小して行っていましたが、今年は古野淳日本山岳会会長、坂井広志副会長、森武昭元会長、山本修司毎日新聞社西部本社代表が御出席になりました。これほど多くの御来賓が御出席下さるのは、支部の行事として初めての事です。特に毎日新聞社はマナスル初登頂に多大の御協力をいただき、その関係で槇さんが九州歴訪の折、当時門司市にあった毎日新聞西部本社に表敬訪問し、その折に地元山岳関係者と風師山に登りその時の感慨を一文に記され、それを記念碑にしたものです。この碑前祭も未永く続いていければと願っています。

最後になりますが日頃から風師山の自然保護に力を尽くし、槇さんの記念碑、略歴碑の管理に努めている風師山早朝登山会及び地元の関係者に想いを致して頂ければ幸いです。



槇有恒碑前祭午餐会 (写真 榊 俊一)

参加者33人：古野 淳(本体会長) 坂井広志(本部副会長) 森 武昭(元会長)
 山本修司(毎日新聞社西部本社代表) 副島勝人(元福岡支部長)
 東九州支部3人：安東桂三(支部長) 加藤英彦(前支部長) 阿南寿範
 風師山早朝登山会3人：柳原寛美 柳原武志 菱田哲郎 門司歩こう会：小田幸男
 北九州支部21人：日向祥剛 園川陽造 原 広美 板倉健一 伊藤久次郎 井上禮子
 馬場基介 高畠拓生 関口興洋 丹下 洽 榊 俊一 丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子
 森本信子 縄田正芳 町元里香 横山秀司 野副 勇 久保正志 將口晋司

10月22日(土)~23日(日)

第10回広島支部との交流会

16186 三宅 明子

前回の広島支部との交流会の際に、「次は10回目だね」と広島支部の皆さんと話をし、「次は九州で、盛大に第10回を開催しましょう」と言ってお別れした後から新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、なかなか第10回目の交流会の実施が出来なかったが、今回は役員会で話し合いを重ねた結果、実施することとなった。

実施するにあたり、開催日の3日前に竹本加代子さんと打合せをし、今回は北九州支部からの女性参加者が少ないため、豊後牛のたたきをメインとし、大分名物のだんご汁、その他はオードブルや刺身を頼むことにした。

当日は15時にカナディアンヴィレッジに集合。ここは、九州アルパインガイドクラブのガイドである長尾さんがオーナーをしている所で、キャンプサイトはもちろんのこと、ロッジ等もあり非常に利用しやすい場所。当初は大きなロッジ1つを男性用、和室を女性用で予約していたが、他のロッジの宿泊がキャンセルになったため、小さなロッジもサービスで利用させていただけることになったため、この小さなロッジを女性用として使うことにした。

15時に全体でミーティングを行い役割分担の説明をして、作業を開始することにした。

女性は専ら料理の準備。竹本加代子さんがだんご汁の野菜等の下ごしらえをさせていただいていたこともあり、スムーズに進めることができた。メインの豊後牛は、藤原さんが前日から準備していただいていた。

作業をしていると広島支部の山内さんから「高速で事故があったので遅くなる」と連絡があった。当初18時からの交流会開催だったが18時40分頃からの開始となった。

開始に先立ち、日向支部長から歓迎の挨拶をいただき、広島支部の森戸支部長からご挨拶と乾杯



広島支部との交流会集合写真 (写真 榊 俊一)

のご発声をいただき、交流会が始まった。ウェルカムワインを出そうと、清家さんに久住産のワインを購入していただいていたが、これは交流会中に出すことになった。ベリーの味がしっかりしたワインで本当に美味しかった。その他、広島支部から日本酒、日向支部長からのビール、焼酎、橋川さんからの果実酒等の差し入れがあり、豊後牛のたたきもおいしく、話も大いに盛り上がった。特に久々の交流会とあって、広島支部の方々も非常に楽しそうにしていた。一旦21時に竹本副支部長から中締めをしていただき、その後は男性用のロッジで2次会を開催。22時過ぎにはお開きとなった。

翌日は北九州支部の女性陣は5時集合。朝食の準備に取り掛かる。6時から、和室で雑炊と、昨日のオードブルの残りで朝食をとってもらい、各グループに分かれて登山に出発した。

今回やっと第10回目の交流登山を実施することができ、ほっとした。料理に関しては、野菜の下ごしらえをさせていただいた竹本加代子さん、豊後牛のたたきを作っていただいた藤原さん、当日の調理に協力していただいた原さんの協力がなければ実施できなかったと思う。本当にありがとうございました。

参加者18人：広島支部(6人) 森戸隆男 後藤 昭 円石理恵子 近藤道明 山内充人 横井邦子
北九州支部(12人) 日向祥剛 原 広美 馬場基介 榊 俊一 竹本正幸 縄手 修
竹本加代子 清家幸三 三宅明子 横山秀司 藤原玲子 橋川 潤

10月23日(日)広島支部との交流登山A班

ブラヒデジ的登山 九重火山の歴史と地形

北九 536 橋川 潤

コースタイム：牧ノ戸峠登山口 7:42→沓掛山山頂 8:20→扇ヶ鼻分岐 9:19→星生崎 9:50
 →避難小屋前 10:00→空池 10:20→久住山 10:48(昼食) 11:22→
 沓掛山 13:14(13:40)→牧ノ戸峠登山口 13:41(14:15)
 ※ () 書きはゆっくり班

広島支部との交流会二日目は二班に分かれ、私たち A コースは横山先生作成の資料をもとに九重火山群の成り立ちの説明を聞きながら牧ノ戸峠から久住山を往復しました。



久住山山頂 (写真 榊 俊一)

宿泊地から登山口までの移動の間、時折雨が降ったものの登山口に着いた時には雨は上がり、ガスが漂う中を歩き始めました。用意された「九重山のジオツーリストマップ(1) 牧ノ戸峠―久住山」を各自手に各ポイントで先生から地形の成り立ちや特徴を聞きましたが、ガスで視界がきかないなか地形図と以前の記憶で地形を想像し、理解に努めました。避難小屋の前でしばし休憩しましたが、このくぼ地も火口の跡だそうです。

久住山を右手にゆっくり登っていた10時30分を過ぎるとガスも切れだして、向かっている久住山頂に多くの登山者がたたずんでいるのが見えるようになりました。山頂に着くとすっかり青空です。ここで最後のポイントである肥前ヶ城溶岩ドームの説明を実物を目の前に聞くことができました。

山頂の陽だまりの中で昼食をとり帰路につきます。すっかり晴れた青空の元、登るときには見えなかった立系を復習し景色を楽しみながら登山口に戻りました。今年の九重は紅葉が例年になく美しかったようで、星生山の西斜面や沓掛山付近のコミネカエデやベニドウダン、ネジキの紅色は特にきれいでした。

普段、私たちが山を歩くときはその時、目の前にある地上の動植物や景色・地形などを見て、疲れも忘れて美しいと感動するものです。最近の山のガイドブックは花などの解説はカラー写真付きで載っていますが、地形地質が説明されているものはほとんど見かけません。その山の現在に至るまでの歴史とともに地上のみならず地下の地質構造まで、さらに地質と植物、地質と地形の関係まで理解できるようになるともっと楽しい山登りができると思います。そのためにはこのような機会を大いに利用したいと思います。



肥前ヶ城の溶岩 (写真 橋川 潤)

参加者10人：広島支部：森戸隆男 後藤昭 近藤道明
 北九州支部：原 広美 馬場基介 榊 俊一
 清家幸三 横山秀治(C.L.)
 藤原玲子 橋川 潤



木版画「坊がつつる讃歌」伊藤久次郎作

10月23日(日)広島支部との交流登山B班

広島支部・北九州支部交流登山

14582 竹本 正幸

コースタイム：キャンプ場～長者原 7：25～諏蛾守越 9：00/9：10～三俣西峰 9：35～
本峰 10：12～大鍋の底 10：50/11：20～南峰 11：45/11：50～
諏蛾守越 12：50～長者原 14：20

10月23日(日)昨日の宴会による二日酔いに気合を入れて起床。女性が準備してくれた朝食を頂いて、長者原には、車で移動する。

長者原駐車場に着いてみるとすごい車の数で駐車する所が無い。ぐるぐる回って空いたスペースに何とか駐車する。計画では、大曲まで車で移動する予定であったが、おそらく駐車スペースはないと判断して、B班は長者原から歩くことにした。天候は曇り空、ときおり霧雨の状態で少し気になるが、予報によると回復傾向にある。牧ノ戸に移動するA班と別れて6人は7時25分歩きだす。

諏蛾守越までは車道の途中からショートカット、いつもは黒土で滑りやすい足元だが、乾燥していて大曲コースより歩きやすい。紅葉の時期でもあるためか、諏蛾守越に向かって登山者の行列が続いている。諏蛾守越にて小休止。風が強くなり肌寒くなる。



三俣山・本峰

(写真 竹本正幸)

右端のコースを30分ほど登って三俣西峰に着く。ガスがかかり視界はゼロ、好天になることを期待しながら本峰に向かう。山頂手前で風に備えて防寒対策をする。山頂も生憎のガスの中、集合写真を撮って大鍋への下りに入る。下りは急傾斜で滑りやすく、ロープや立ち木を頼りに慎重に下る。鞍部に出る頃には、ガスが風に流されて青空がのぞく、目の前に紅葉が広がった。感動の歓声上がる。しばらく紅葉を楽しんで、北峰には行かず大鍋の底へと歩を進める。周りが紅葉していて青い空と岩とのコントラストが素晴らしい。沢山の人が休憩している広い岩場で昼食。ゆっくり休んだ後、鍋底から稜線に出て南峰へ向かう。天候も回復して、南峰では360度の眺望が素晴らしい。ドローンを飛ばしてタブレットで見ながら楽しんでいる人もいた。下りは、本峰には寄らずにショートカットで12時50分には諏蛾守越に到着。

途中でA班と連絡を取ると、今から車で長者原に向かうとのこと。我々も歩を速め長者原にて合流する。来年の再会を約束して解散する。

参加者6人

広島支部：円石利恵子 山内充人 横井邦子

北九州支部：竹本正幸(CL) 竹本加代子 縄手 修



木版画「坊がつる讃歌」伊藤久次郎作

シリーズ 福岡の山の Geo

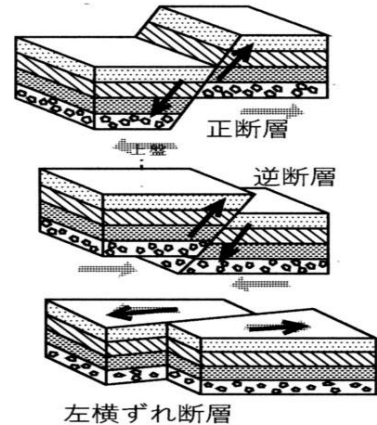
山の地質・地形とその成り立ち

第6回

断層山地

16382

横山 秀司



断層運動は、図のように、垂直ずれ断層である正断層と逆断層、水平ずれ断層の横ずれ断層があります。断層を境に隆起した側の地塊が断層山地となり、その斜面は断層崖とよばれます。

戦前、地理学者で日本山岳会名誉会員(会員番号21番)であった辻村太郎は、福岡県の断層地形として、背振山断層崖、七曲峠断層崖、西山断層崖、犬鳴峠断層崖、砥石山断層崖の存在を、また、山地の両側を断層で限られた地壘山地として、皿倉山から牛斬山までの南北の山稜、平尾台から飯岳(大坂山)などをあげています。



写真1 西山断層山地(宮若市庄屋村付近から西望)2016.5

(写真 横山秀司)



写真2 福智山断層崖(鷹取山から南望)2008.5 (写真 横山秀司)

戦後になると、断層地形の研究は活発となり、特に活断層(数十万年以降、繰り返し活動し、今後も活動が予想される断層)の存在が次々と明らかにされました。県内では、日向峠・小笠木峠・警固・宇美・西山・福智山・小倉東・水縄断層が活断層として認定されています。それぞれ断層の背後には断層山地が連なります。例えば、宇美断層は若杉山～宝満山、西山断層は西山から南へ延びる山稜(写真1)、福智山断層は皿倉山～尺岳～福智山(写真2)、小倉東断層は足立山と平尾台～竜ヶ鼻、水縄断層は高良山～鷹取山に伸びる東西の山稜などが断層山地となり、それぞれ断層線に

向けた斜面が断層崖となっています。一般的に断層崖は、急斜面となることが多く、登山道は急登であり、汗をかきながら登ることになります。

なお、数万年前から上記の活断層の多くは、左横ずれ断層の動きを伴っています。また、宇美断層や福智山断層などは、断層山地に向けた逆断層の動きも見られます。すなわち、福岡の断層山地は数百万年前の断層運動によって隆起した山地であり、その山麓部で新たな断層運動が生じているということになります。

山地は、とてつもなく長い時間をかけて地殻運動や侵食作用の結果として形成されたものであり、地質の相違によって山体も変化します。まだまだ、わからないことがたくさんあります。登山の際には、その山の地形や地質、そしてその成り立ちなどを考えながら登ってみてください。

完

7月9日(日)

森林保全巡視活動

森林巡視「城山(城ヶ岳)」と故 城戸剛君を偲んで

14264 丹下 治

赤間宿は唐津街道の宿場で「木屋の瀬」「芦屋」へと道を分ける。城ヶ岳は名前の通り中世以来山城があり注意して歩を進めると「曲輪」跡と思われる平坦地「空堀」跡の傾斜地もある。又、森林保全状態も良く巨樹の下には「ウスキキヌガサタケ」を見る事が出来る。又、山頂(本丸跡)海上70mはるかには世界遺産「沖ノ島」が遠望出来るとか。

この山は故 城戸剛会員(16526)と最後に登った山です。平成31年4月21日通常総会で入会し、4月25日「花尾山」5月12日「英彦山清掃登山」では中岳のバイオトイレの使用済みトイレを担いで下りる時、膝を痛めている私をかばって途中まで迎えに来てくれ、黙って笑顔でザックを担いでくれました。6月6日「扇ヶ鼻」7月11日「城ヶ岳」私とはわずか4回の山行でしたが、楽しい印象を残してくれました。明朗快活ウィットに富み、そしてチョット頑固。忘れ得ぬ思いを残して去って行きました。

今宵は「ベニー・グットマン」の「メモリーズ・オブ・ユー」(貴方の思い出)を聴きながら献杯・・・

※城山(城ヶ岳)は四塚連山(城山・金山・孔大寺山・湯川山)の1つであり、江戸期には福岡藩の番所が置かれていた。

「城山(317 ㍎)～孔大寺山(499 ㍎)」に参加して

北九479 網塚 陽子



孔大寺山山頂

(写真 横山秀司)

今回私は城山のめずらしいキノコの一つキヌガサタケを見たいと思い参加しました。当日は教育大の近くの登山口から出発。登り始めた9時半過ぎはすれ違う人も多く、挨拶がわりに「ありましたよ」とか「あの辺に」など声をかけられました。実際に目にしたキヌガサタケは黄色い網目のカサをかぶった美しい姿でキノコの女王と呼ばれる理由もわかるような気がしました。またタイミングよく見られたことが良かったです。

その後、城山山頂で1グループと別れて金山に向かい孔大寺山まで縦走しました。印象に残ったのは低山で町に近い山々ですが、巨木も多く珍しいキノコも見られたことです。現地で「城山を守る会」のパンフレットを見せていただき、メンバーの方々の行き届いた手入れで自然が守られていると感じ、また私も地域の山への関わり方を考えるよい時間になりました。

そして7月のはじめとは思えない暑さの中での山行でしたが、歩きがいのあるルートでした。最後に同行頂きました皆様お世話になりました。ありがとうございました。

参加者11人：馬場基介 丹下 治 丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉(C.L.)
森本信子 町元里香 三宅明子(S.L.) 横山秀司 網塚陽子

7月13日(水)

英彦山・山のトイレ清掃登山

～今年最後のトイレ清掃活動～

15616 奥田スマ子

コースタイム：別所駐車場 9:05～奉幣殿 9:30～中宮～中岳山頂 11:15 (トイレ清掃、昼食休憩)
12:30 往路下山開始～別所駐車場 14:20



英彦山最後のトイレ掃除 (写真 榊俊一)

英彦山バイオトイレのある山頂一帯は、来月より実施予定の上宮社殿修復工事に伴い3年間立ち入ることが出来なくなり、そんな訳で英彦山トイレ清掃活動は今日が最後ということになりました。

本日の天気は曇り／晴れ。朝から暑い中、別所駐車場をスタート。日向支部長、竹本副支部長、榊事務局長は上宮社殿修復の寄付金を納めるためひと足先に出発。お二人とは奉幣殿で合流して山頂へ向かいました。(日向支部長は所用のため下山)

樹林帯は風がなく地獄の暑さ。花の時期も過ぎています。「花がなくて癒しなし。」花が大好き、竹本加代子さんのつぶやきが聞こえてきます。この暑さに歩くペースが上らず遅れる者も出てきました。尾根

に出ると吹く風に一息つきながらようやく山頂へ。山頂は気温23℃。この涼しさは嬉しい。早速トイレ清掃活動へ以前トイレ内の壁に取り付けていた備品入れのカゴを取り外して元通りの状態に戻した、トイレ内外、休憩所まで清掃して清掃活動が終了しました。昼食休憩後は往路下山。別所駐車場に無事到着しました。みなさま、おつかれさまでした。

英彦山・山のトイレ清掃活動はこれまでにたくさんのご参加を頂き、皆様のおかげで無事終えることができましたこと深く感謝致します。

3年後、英彦山・山のトイレはどのような形態(バイオトイレ、携帯トイレブース等)でお目見えするのか、まだ分かりませんがその日を楽しみに待ちたいと思います。

英彦山・山のトイレ清掃登山の詳しい報告をルームに置いています。ぜひご覧ください。

さいごに英彦山トイレの神様よりひとこと



むすび神社 (写真 榊俊一)

「日本山岳会北九州支部のみなさま。トイレ清掃活動、本当に有難う。
みなさま方のおかげで私はいつも快適でした。
また英彦山山頂でお会いできる日を楽しみにしています。
みなさま、それまでお元気で。ごきげんよう」。

参加者8人：磯野文雄 榊 俊一 竹本正幸 竹本加代子 縄手 修 歳弘逸郎
奥田スマ子 (CL) 中畑智子

10月8日(土)

平尾台ボランティア活動に参加して

15710 町元 里香

令和2年度から開始した平尾台でのボランティア活動、今年は10月8日(土)に行くことになった。今回もセイタカアワダチソウを抜く作業。今年は13人が参加してくださった。

7時20分に平尾台自然観察センターに集合。今回も自然観察センターの古川さんからセイタカアワダチソウの植生や、上手な抜き方などを教えて頂いた。初めて参加するメンバーも熱心に話を聞いていた。今回は参加3回目の方が多く作業がスムーズに進んだことに加え、昨日までの雨で地面が緩み抜き易かったこともあり、時間内に沢山のセイタカアワダチソウを除去することができた。それでも岩山付近にはまだまだ残っている。来年の宿題を残して作業は終了した。岩山に移動し今日の作業を終えた場所を眺めながら昼食。作業後はみんな腰をたたいたり、さすったり。グー、パーをしながら両手のリハビリをしたり。やはり除草作業は疲れる。しかし今年の頑張りが来年の成果となって実を結ぶと思うと、それがやりがいになる。今後もこの活動を続けていきたいと思う。参加された皆さん、お疲れ様でした。



セイタカアワダチソウと集合写真 (写真 町元里香)

参加者13人：馬場基介 丹下洽 丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉 縄手 修
町元里香(CL) 清家幸三 中畑智子 横山秀司(SL)
辻 伸一(ビジター) 辻 直美(ビジター)

野副さんと油彩画「ロッククライミング」
(作：野副 勇)

~~ 新入会員紹介 ~~

16990 野副 勇 (北九州市門司区)

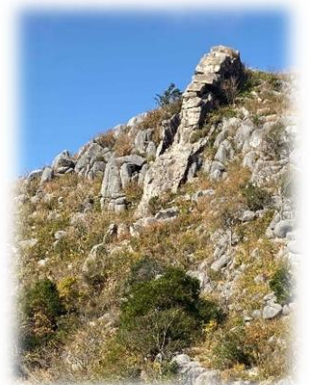
60才定年後20年余り、ウクレレ演奏と油彩画制作を楽しんできました。二つの趣味がご縁で「ギャラリーカフェ柳庵」のマネジャーを努めています。北九州支部の版画同好会とのお付き合いで、展示会を開催したり、山の日記念等お付き合いが深まり、日本山岳会の話が若いころの情熱を思い出し「より高くより困難な道へ」思いを寄せた当時を懐かしみ、山行は無理でも、山の話、山の匂い等々繋がっていたい。ワガママな老人ですがお付き合い宜しくお願い致します。

11月12日(日) ブラヒデジ的登山・自然保護巡視

平尾台・新しい発見と植物の声

14853 竹本 加代子

コースタイム：茶ケ床＜東屋でレクチャー＞出発 9：00～大平山 9：53/10：05
～四方台 10：55/11：35＜昼食＞～
(ビジターセンター古川さんと合流・ウメバチソウの保護状態の説明)
～広谷湿原～滝不動 13：07～青龍窟 13：20/13：30
～茶ケ床 14：07



石灰岩に挟まれた花崗岩の唐手岩
(写真 橋川潤)



自然巡視保護活動を終えて (写真 榎俊一)

11月中旬にしては暑い一日だった。我が家からいつも眺めることの出来る平尾台。自然保護巡視とブラヒデジ的登山に参加する。

ビジターセンター駐車場に集合し、3台の車に分乗し茶ケ床に移動する。東屋で横山さん(CL)より平尾台の形成史等のレクチャーを受ける。〇〇億年前も〇〇万年前の差は自分にとってはあまりピンとこず、聞き流す。しかしながら日本列島が大陸続きであり大陸のふちが分離し日本列島となり、その後、日本海も形成され9万年前には阿蘇山の大噴火がありその火砕流が平尾台に押し寄せ堆積したと教わる。マンモスの化石が青龍窟で発見されたということは、氷河時代に大陸と陸続きでありマンモスが生息していたことを実感する。その後、地形図からドリーネ探しをする。等高線の内側にハッチがあるものや矢印のあるくぼ地に色鉛筆で塗りつぶす。平尾台にはこんなにたくさんのドリーネがあったのかと驚かされる。

しっかりとレクチャーを受けた上で9時に出発。ブラヒデジ的登山の始まりである。ドリーネを確認しながら大平山を目指す。大平山ではピナクル(石塔)の節理の説明です。ピナクルは一定の方向性が

あるという。本当に一定の方向に向かっている。ピナクルとピナクルの間が出来ているのは溶解しているから？ どうしてほぼ均一に溶解？今まで石灰岩のピナクルを羊の群れ(羊群原)としか見ていなかったことからその新しい発見に嬉しくなる。

大平山から防火帯として野焼きされた羊群原を歩きながら石灰岩と花崗岩の境目を地学的見地から教わる。四方台への急登からは石灰岩が見受けられないのだ。ピナクルも見られない。花崗岩になったのだ。見て聞いて実感する。15分で急登を登り四方台で少し早い昼食を取る。

昼食後は平尾台自然観察センターの古川さんと合流し、ウメバチソウの咲く場所へ。写真を撮るために踏み荒らされた場所で、如何にその保護に取り組んでいるかを知る。可愛い花に癒されたい。しかし、その花の声無きSOSが聞こえているだろうか。その現状にマナーの啓発を感じた。最近、花に興味を覚え花に会えることを楽しみにしているがマナーは守りたい。

その後古川さんとは別れ、広谷湿原から滝不動へ。その滝で又新しい発見をする。滝は水量があるにも関わらず水が溜まらない。水たまりすらなくしみ込んでいること。ドリーネである。次の発見は「唐手岩はどうして出来たか？」花崗岩の唐手岩を挟んで左右は石灰岩のピナクルである。石灰岩の深いところへ貫入し持ち上がった岩石だと自分なりに分かったような気である。1つ疑問が解決した気になった。

そして最後に青龍窟へと向かい、茶ケ床からセンターの駐車場へ戻り、センター裏の花は咲いてはいないが「むらさき」を観察。絶滅危惧に指定されている「むらさき」の保護をと思いつつ解散となる。横山先生、平尾台のレクチャー有難うございました。

参加者9人：榎 俊一 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉 森本信子 三宅明子(SL) 横山秀司(CL)
網塚陽子 橋川 潤

11月4日(土)~5日(日)

日本山岳会広島支部創立 25 周年式典に参加して

14852 竹本 正幸

2022.11.5(公社)日本山岳会広島支部
創立25周年記念式典&祝賀会

大杉谷の4人は、山行を終えて11月4日14時からの広島支部創立25周年記念式典に間に合うよう会場に向かう。

会場で日向支部長、榊事務局長、三宅総務委員長と合流する。先日の久住山交流会に参加された広島支部の方々に会うことができ、話が弾む。式典は、森戸隆男支部長のご挨拶に始まり、ご来賓祝辞では、日本山岳会 古野淳会長、19代会長 斎藤惇生、23代会長 尾上昇、広島県山岳・SC連盟会長 山田雅昭と続く。功労者表彰は、支部長をされた3人の方が表彰された。特別講演は、「支部報の編集から見る広島支部の創立初期」長年支部報の編集に携わってこられた前広報委員長 国枝忠幹さんの思いが語られた。

祝賀会は、吉村千春副支部長の開会あいさつの後、日本山岳会元副会長 神崎忠男さんの乾杯で始まる。参加された各支部長の紹介とご挨拶が続ぎ、広島支部の活動の幅広さを垣間見る。最後に創立25周年記念事業「海外遠征・アマ・ダブルム登頂」の報告があり、若者たちの真摯な報告に耳を傾ける。近藤副支部長の閉会あいさつで幕引きとなる。アマ・ダブルム登頂は、海外遠征未経験の若者3人でチャレンジしており、支部の層の厚さと活発な活動が伺える。日本山岳会会長の挨拶の中で「人生100年時代の安全登山」を探索しているとの発言に、高齢者の遭難防止と安全登

山の対策には今後とも取り組んでいくことの大切さを感じる。

翌日の記念登山は、宮島の弥山に北九州支部から8人が参加する。久々に内藤さん、小林さんと一緒に登山ができ、また他支部の方との交流も出来て有意義な一日でした。

お昼は広島支部がプロデュースして、駅でも販売されている「山のおべんとう」をいただく。横にしても縦にしても中身が動かないヒット作である。

記念式典には、多くの重鎮の方々が参加されていたが、記念誌の発行もなく特別講演も支部の方がされており、比較的簡素化されているように感じた。今後の記念行事は、あまり派手にせず北九州支部の現状に合った行事で良いのではと感じた。



宮島記念登山

(写真 竹本正幸)

参加者8人：日向祥剛 内藤正美 榊 俊一 竹本正幸 竹本加代子 縄手 修 町元里香 三宅明子

7月9日(土)～7月10日(日) 指導委員会**第2回指導委員研修会の報告****15806 清家 幸三**

今回は無雪期のテント泊がテーマでした。

第1回指導員研修会の報告に沿って今回から「技術委員会」への移行を踏まえての内容で進めました。これからは年2回のテント泊の実施を取り入れて行く計画です。ですから、次は雪山訓練でのテント泊になります。設営技術と同時に体力並びに山行技術の向上を図ることを目的としています。今回は雨のために下記に変更して実施しました。

7月9日(土)

一目山登山口を10時に出発して涌蓋山往復コースで15時46分下山。16時に九重グリーンパーク泉水キャンプ場着。日程変更のために参加は縄手さん、宮本さん、清家の3人でした。後から参加の竹本さん夫婦と町元さんの3人はキャンプ場で合流してテントを参加者6人で設営。縄手さんはツエルトの設置のレクチャーをしてテント替わりにする。設営の後、各自キャンプ場内の温泉入浴。18時30分より食事。20時30分就寝



ちょっと一休み (写真 清家幸三)

7月10日(日)

午前3時起床、テント撤収、各自朝食。4時牧ノ戸峠登山口出発。天狗ヶ城～中岳～白口山～稲星山～久住山～星生山の六座を経由して牧ノ戸峠に13時42分下山して散会しました。今回は無雪期のテント泊がテーマでしたが、早朝でのスピーディーな撤収作業と出発前の準備をいかに効率良くコントロールするか。貴重な経験であったと思っています。さらにもっと大事なことは互いの意志疎通を図ることではないか。厳しい自然の中で技術や体力にプラスαはコミュニケーションの能力ではないかと確信しました。

参加者6人：清家幸三 竹本正幸 竹本加代子 縄手 修 町元里香 宮本真希

～～ 新入会員紹介 ～～

北九 543 田和瀬 修 (北九州市小倉北区)

新入会承認いただきました田和瀬 修です。宜しくお願い致します。

仕事をしながら、消防団活動を25年勤め、今は災害ボランティア活動を考えています。そのための体作りで山歩きを始めましたが、山のことを全く知らないなあと気づき、山のいろいろな姿を知りたい思いで支部入会を希望しました。



(写真 田和瀬 修)

観天望気

～ 強風を知らせてくれる雲 ～

笠雲、吊るし雲、レンズ雲、旗雲は天候の悪化のサインです。登山前に山頂付近の雲を確認しましょう。



富士山にかかる笠雲

10月9日(日)～10月10日(月・祝) 指導委員会**第3回指導委員研修会の報告****15806 清家 幸三**

今回は“気象”がテーマでした。

特に最も重要な風向きと強さを知ることをメインにしました。

前回でテント泊における意思疎通の重要性を記述したことを踏まえて再度テント泊にして下記の通り実施しました。

日 時 令和4年10月9日(土)～10日(日)

場 所 蒜山三山縦走

参 加 指導員6人：竹本正幸 竹本加代子 縄手 修 三浦利夫 町元里香 清家幸三(CL)

内 容 気象



下蒜山頂上 (写真 清家幸三)

気象については「山の天気でもっとも重要なことは風の向きと風の強さである。」ヤマテンの代表取締役社長の猪熊さん(JAC会員)が主張している点です。

低気圧の特性として時計の針とは逆方向に吹きますが山の稜線上で低気圧が北側あるいは西側を通過する時は風の向きは南東から南そして南西へと時計回りの風向きになります。低気圧がその逆の南側あるいは東側を通過する時は風向きは低気圧の特性と同じで南東から東そして北東へと変わります。この基本的な風の向きを知っておけばビバーク時の場所の選定に決定的な要素になると同時に強さも含めて低体温症を少しでも低減することになります。

今回、低気圧は北側を通過していました。雨は予測通り就寝時から翌日まで降りました。午後からは

回復傾向の予測でした。6時30分に小雨交じりの中でスタートしましたが、途中5合目からレインウェアの下ズボンも着用しました

8時45分に上蒜山(1,202㍓)着。これから下蒜山までの稜線上での風向きと変化に注意を払いながら進んでいきました。アップダウンが多く中蒜山の頂上近くと下蒜山の下りが開けていましたのでその時点が場所的にも適正な所と判断しました。風の強さは強くても6から7m/s程度でその後は段々と弱まっていきました。風の向きは最初は南でその後南西方向が続いていました。この方向については上記の基本的な風向き方からすればこれから先は西風から北西の風に変わることであります。この風向きは今回の研修会でのメインテーマに掲げていました内容と違わなかったと思っています。

ただ、竹本リーダーが現場で風向きが地形により変わることも指摘されました。今回のこの場所が上記の基本的な風向きをベースとして考えらるのか検証する必要がありますが、その場所ごとの特別な地形も含めて判断していかなければと思いました。

山に行く前の天気図と下山後のしっかりとした検証をしながら、今後の山行を進めてより正確な風向きや強さを判断したいと思った研修会でした。

参考までに下蒜山山頂着は12時10分でこの頃から青空が見えてきました。ただ、下りは雨上がりでなくても一度は滑る経験のできるコースです。今回のメンバーの中で三浦さんだけが滑らなかったと記憶しています。13時40分に全員無事下山して帰路につきました。

8月20日(土) 月例山行 沢登り

七重の滝 沢登り

北九533 仙崎 宏

コースタイム：増漕ダム(路肩) 8:00～一の滝 8:45～四の滝(準備/入渓)
 9:00/9:30～五の滝 10:00/10:15～六の滝 10:22/10:30～
 七の滝 10:40/11:15～分岐出溪<昼食> 11:30/12:00～
 登山口 12:50～増漕ダム(路肩) 13:15

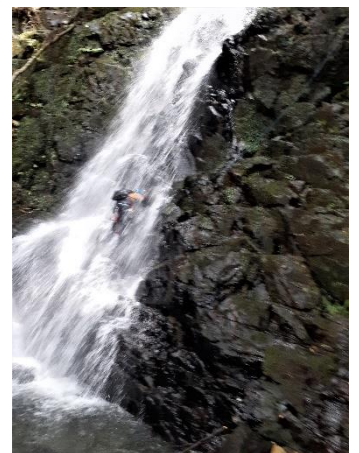


緩傾斜の五の滝 (写真 竹本加代子)

増漕ダムより七重の滝登山口まで、歩く事30分、山小屋を経て一の滝まで更に30分、一の滝、二の滝、三の滝を横目に登山しながら四の滝よりトライ開始!! いよいよ待ちに待った沢登り軽快に登れたのも、昨年、今年と皿倉山、国見岩にて竹本氏よりクライミングの講習を受けたおかげかと…来年は、一の滝よりトライするとの事なので、頑張っておスキルを上げ参加したいと思ひます!!

～沢登り後記～

計画しても天候で中止になることが多いのですが、今回も3日ほど前から雨が続いたので沢の水量が心配でした。さらに予報では、午後から天候が崩れるとのことで、一、二、三の滝はパスして四の滝から入渓六と七の滝は安全のため1人ずつロープで確保しました。シャワークライミングも経験でき、初めての方も経験値を増やす事ができました。



ホールドは沢山ありそう七の滝 (写真 竹本加代子)

参加者6人：竹本正幸(C.L.) 竹本加代子 清家幸三 町元里香
 松本重裕 仙崎 宏

～～ 新入会員紹介 ～～

北九542 綱川和幸
 (山口県長門市)



(写真 綱川和幸)

お世話になります。綱川和幸と申します。
 1956年9月10日生まれ男です。
 美容師をしていました。
 子供は独立したので、妻と犬三匹と暮らしています。
 よろしくお願ひします。



木版画「椿の花」伊藤久次郎作

9月11日(日) 月例山行(宝満山～三郡山)
宝満山への道のりは暑さと段差の大きな石段に耐えて

14852 竹本 正幸

コースタイム：竈門神社 7:30～水場 8:22～中宮跡 9:07～宝満山 9:30/9:40～
仏頂山 10:00～三郡山<少し下り昼食>10:55/11:40～仏頂山 12:28
～キャンプ場 12:45～中宮跡 13:05～水場 13:50～竈門神社 14:30

参加者6人は、竈門神社第3駐車場に予定時間より早く集合。宝満山へは、30分早い出発となる。正面登山道を登るが、段差の大きい石段の連続で、いつ来てもしんどい登りである。天候は、気温・湿度共に高く、すごい汗だ。ズボンまで汗で濡れているのがわかる。

2本目のタオルも絞って使う状態。2時間の行程で山頂に着く。山頂からの展望は素晴らしく眼下に広がる筑紫平野や玄界灘の眺望も楽しめる。

集合写真撮影後、ブナなどの常緑樹に覆われた気持ちの良い道を三郡山へと向かう。三郡山までの縦走路はいくらか気分的に楽になった。登山口から3時間30分で三郡山に到着。頂上は木陰が無く暑いため、少し下った所のベンチで昼食を摂る。

下山は、宝満山頂上を巻いてキャンプ場のそばを通り、中宮跡で合流して正面道を下る。段差の大きい自然石の石段は、下りもこたえる。脱水症状にもならず良いトレーニングになりました。リーダーの三浦さんお世話になりました。



宝満山山頂

(写真 三浦利夫)

参加者 5人 三浦利夫(CL) 竹本正幸 竹本加代子 縄手修 赤瀬榮吉 小畑止

～～ 新入会員紹介 ～～

北九 541 将口晋司 (北九州市門司区)

3年前より、ソロもしくは家族と登山を楽しんでますが、新しい山域や遠方にはなかなかチャレンジ出来ていません。今後、より楽しめそうな登山や岩登りにも挑戦したいと考えています。

今後、皆さんと一緒させて頂くことを楽しみにしています。若輩者ですが、末永くよろしくお願い申し上げます。



(写真 将口晋司)

10月2日(日) 月例山行

阿蘇高岳・中岳に参加して

北九 520 松岡 文子

写真や人のブログを拝見して以前から行ってみたいと思っていたこの山行。会報で見つけて飛びつきました。仙酔峡駐車場に9時集合ということで、福岡を5時半には出ないとなあとグーグル様にお尋ねしたら、しばらく行かないうちに大津から阿蘇西まで復旧道路たる便利な道が出来ていて、6時過ぎ出発でも十分に間に合いました。

準備体操後出発して先ずは高岳を目指しますが、火山岩の中々の急登が続き、夏の疲れが出ている体には堪えました。度々休憩を入れてやっと尾根に上がると雄大な阿蘇の景色が360度広がります。九重連山・祖母山 目の前には険しい根子岳、周囲を囲む外輪山と阿蘇には雄大という言葉がぴったりです。根子岳を目の前に昼食を取り中岳経由して火口展望に向かうとそこは月面か火星かと思わされる景色が広がり、地球は生きているのだと思わされます。遠くに、昔バス見学で言った建物はもう無くバス等の駐車場の白い線が見えます。阿蘇には人工物は無いほうがいいなあなんてちらっと思いました。

ロープウェーの廃墟を眺めると、なんとなく映画「猿の惑星」が頭をかすめます。雄大な阿蘇に圧倒された一日でした。この行事 計画してくださいましてありがとうございました。



高岳山頂 (写真 清家幸三)

参加者12人：縄手 修 清家幸三(CL) 藤原玲子 目原礼子 縄田 恵美子 松岡文子
大山時彦 橋川 潤 堀内博史 赤間啓史
佐藤千代子(ビジター) 松岡憲保(ビジター)

~~ 新入会員紹介 ~~

北九 540 久保 正志 (北九州市小倉北区)

現在67歳。3年前に左膝を痛め、1年程前に漸く治りました。折角治ったので登山を始めようと入会させていただきました。約半世紀ぶりの再開です。とは言っても、半世紀の間には、九重、霧島、石鎚山、富士山、筑波山や北九州市内の山など数回行きました。体力に心配はありますが、よろしくお願いします



(写真 久保正志)



木版画「英彦山遠望」伊藤久次郎作

天気のことわざ

～生き物を観察してみよう～

ネコが顔を洗うと雨が降る

11月20日(日) 月例山行**国東半島峯道ロングトレイルに参加して****14689 大内 喜代子**

今回は並石ダムからトレイルの始まりですが、小倉口駅KMMビル前7時30分集合出発で14人が国東までバスハイクとなる。ダム湖の後方は紅葉と奇岩が連なって景観がすばらしい。

14人はA、Bの2班に分かれてのトレイルが始まる。長安寺までの行程は岩ゴロゴロ、倒木ありの荒れた道、その後は落ち葉を踏む歩きやすい小道には道標があり、紅葉と花で名高い長安寺に着いた。しばらく境内を散策。次に天念寺に向かう途中、前方に山中高い所に空を透かす小さな橋が見えた。何とその橋を渡るのことに。天念寺を通り過ぎた先から岩登りの始まり。急峻な岩場は鎖つき、目の前を通せんぼしているかのようにそびえ立っていた。かなりの時間を費やし全員登り切って小さく見えた橋(無明橋)を渡り反対側に回り込んで岩場を下って行くと田畑の先に無動寺が見え隣の駐車場にバスが待っている。今回のトレイルの終着点です。

国崎半島で古くからおこなわれてきた六郷満山峯入行のコースをベースにトレッキングやウォーキングハードな登山道等含めた豊かな自然を楽しむことが出来ました。この下見に2回いかれたとのこと感謝です。お疲れさまでした。

参加者14人：大内喜代子 森本信子 縄田正芳 清家知絵 塚本久嘉 清家幸三
藤原玲子(CL) 太郎良嘉親 網塚陽子 縄田恵美子 大山時彦 赤間啓史
久保正志 柴田芳美(ピジター)



天念寺無明橋の傍ら (写真 清家幸三)

「福智山登山1万回達成！ 仲間のおかげ」**13819 太田 満**

福智山山頂 (写真 縄手修)

私の鍛えし山 福智山。2006年9月8日の5千回記念登山以来、日本三百名山を目指しながらも16年間登り続けた。

そして秋晴れの2022年10月21日山頂で山仲間を迎えられ一万回登山を達成しました。毎日登っても27年5ヶ月で一万回。自分でも良く続けられたものだと健康に感謝した。また、山頂で会える山仲間がいたから猛暑の続いた夏でも頑張れたのだと思った。50代では一時間で登れた山頂も、80代では二時間ほどかかるようになりました。それでも翌朝になるとまだまだ登ろうと意欲が湧いています。新しい年も顔を見せなくなった旧友を思い登れる有難さに感謝して山頂を目指す。



山仲間と (写真 縄手修)

※福智山登山1万回達成記念として2022年10月27日の西日本新聞に掲載されました。

7月24日(日) ボレボレ山行**長登銅山跡探訪****14264 丹下 治**

長登銅山 (写真 縄田正芳)

〔みとう〕は奈良大仏のふるさとと書かれたノボリがある様に奈良の大仏はみとう(奈良登りが長登に転じたと言われる)の銅を使って製造されてと言われる)北九州採銅所の銅の山だとの説もあり、この地で出土した木簡には豊前と印されたものもあり、門司の甲宗八幡宮や和布刈神社との関係を推察出来るものもあるとか。採銅所には古来、大陸からの渡来人が住み遠賀川流域の稲作と同様、機織り等の先進技術を伝えたといわれ、銅の精錬技術も一緒に伝えられたと思われます。

採銅所には「現人神社」が祀られており、渡来人の祖先神「ツヌガアラシト」を御祭神としているとか・・・採銅所にはボレボレ山行で「千女房の山桜」を訪れた時に間歩に入りましたが長登のそれは「^{かやがほ}榎ヶ葉の山」の中腹に間歩があり、採掘には大変な労力を要したと推察出来る。

長登銅山交流館でレクチャー(ビデオ、出土品鑑賞の後)キャップランプ付きヘルメット、懐中電灯、熊除けの鈴(先日、猪のワナに掛かったクマがいた)そして、学芸員の案内で滝ノ下、大切四号坊へ向かう。石灰洞穴には火山活動による花崗岩、日本画の岩絵具の「緑青」もある。この穴にはコウモリが多く突然の侵入者に洞中を飛びまわり歓迎してくれたが獣臭が酷いのは閉口した。

帰りは「木の山公園」に立ち寄る。ここには近代の精錬所跡が残っている。交流館の横には本誓寺の廃寺跡があり、多くの無縁仏の墓石が残り天平の風情を残すかの様に「大賀ハス」が咲いていた。

参加者5人：原 広美(C.L) 丹下 治 丹下香代子 縄田正芳 太郎良嘉親

9月15日(日) ボレボレ山行

わになきはちまんぐう

鰐鳴八幡宮・山口市街散策**13471 板倉 健一**

山口県庁駐車場に集合。9時40分に鰐鳴八幡宮に向けて出発。同八幡宮は彼岸花が有名で、参道の両側に並んで植栽されていた。不思議なことに左側の彼岸花が満開で、右側は全く咲いていない。片側ずつ咲く様である。次に臨済宗常栄寺の名刹雪舟庭を訪れた。音響設備工事中であったが、庭園を周回し心落ち着く一時を過ごした。昼食は山口県庁の食堂で美味しく食べた。午後からはザビエル記念聖堂に行ったが休館中であった。亀山に登り市街の景色を楽しんだ。歩いて一の坂川沿いから、旧大内氏館跡の竜腹寺に向かった。歴史を感じさせる古刹です。山道はイロハモミジの木が両側に並び緑の葉でしたが、雰囲気のある参道です。



鰐鳴八幡宮 (写真 縄田正芳)

参加者 6人：原 広美 板倉健一 関口興洋 丹下 治 丹下香代子 太郎良嘉親

10月16日(日) ポレポレ山行

ポレポレ 秋の俳句ING IN 弥山岳

13533 磯野 文雄



弥山岳山頂 (写真 伊藤久次郎)

令和4年10月16日(日)に、弥山岳(七曲りコース～展望所(昼食)～山頂～グlausコース)を、総勢13人のポレポレメンバーが登山しました。

弥山岳は、「弥山岳を守る隊」の活動により、登山道が整備され、植物が保護されて、登山道には俳句が掲げられています。

登山はスポーツでありながら、その様態は百人百様、今回はハイキングと俳句をかけて、俳句を作ってくださいました。ルールは、五・七・五の文字数、季語をいれる、その二つで、提出(投句)は自由、としました。

汗ばむも イガグリ落つる 弥山岳
 山道に 僅かに色付く もみじかな
 初山行 サラシナショウマ ポカン顔
 秋風に 揺れてはじけて 栗ごはん
 山道に 木漏れ日 鈴の音
 秋風に せせらぎ ほほの汗
 妻と歩(い)く 「やすらぎの森」 未だ緑
 弥山岳 全山写真で 花盛り
 弥山岳 知らぬは花の 名前なり
 久々の 山路迎える 栗ひとつ
 すすき揺れ いにしえ誘う 古墳群
 弥山から 飯塚盆地に 秋を見る
 飯塚は 古代の海か 秋景色
 芋環(イモマ)や 亡父(ハ)の名よびつつ 山を往く
 母愛でし コスモスの花 野に満る

優子
 優子
 M1
 M1
 眞一
 眞一
 丹下
 Q
 Q
 正芳
 正芳
 秀司
 秀司
 環の息子丹下
 香代子



弥山岳展望台 (写真 伊藤久次郎)

皆さん、ありがとうございました。なんとなく、ポレポレ登山の様子を、うかがい知ることができませんか。

登山は、文字通り「山に登る」行為ですが、その意味は、時代とともに変わってきています。かつては狩猟や採取であった登山が、信仰の対象となったりしました。現代では、修験者の通行路が県道や市道となったり、修験者の宿坊がキャンプ場となったりしています。写真や絵画や文学の対象になったり、観光資源になったりもしています。登山を通じて、自らの生き方や自然環境の保護について、思いを巡らす事もあるかと思います。登山が、より楽しく意義のある登山となるよう願っております。

参加者13人：原 広美 板倉健一 伊藤久次郎 井上禮子 磯野文雄 関口興洋 丹下 洽 丹下香代子
 縄田正芳 横山秀司 田中眞一 田中陽子 久保正志(ピジター)

観天望気

～ 天気が崩れるサインを読み取ろう ～

天気図などから寒冷前線が近づく可能性がある時は空をこまめに観察し、かぎ状やえびのしっぽのような形のすじ雲が現れたり、遠くに帯状に連なった入道雲が見られたりした時は、すぐに安全な場所に非難しましょう。



個人山行 6月20日(月)~25日(土)



秋田の山々―田代岳・森吉山・和賀岳―を訪ねて

北九 536 橋川 潤

秋田県の山には何度か訪れたことがあります。今回は白神山地東部の田代岳、古い火山である森吉山そして奥羽山脈の中でも奥深く秘境と言われている和賀岳に家内と登ってきました。



コバイケイソウとキアゲハ(写真 橋川潤)

行程	6月21日	福岡空港→花巻空港→ 田代岳荒沢登山口
	6月22日	田代岳登山→森吉山山麓のホテル
	6月23日	森吉山登山→ 和賀岳(薬師岳)登山口避難小屋
	6月24日	和賀岳登山→水沢温泉の民宿
	6月25日	民宿→花巻空港→福岡空港
		※岩手・秋田県内の移動はレンタカー使用

1 田代岳(大館市:1,178 ㍎)

21日に大広手登山口からさらに1 ㍎ほど先の荒沢登山口の駐車場に到着し車中泊。21日の夜まで時折強い雨と稲光に見舞われましたが、翌2時頃には月も昇り満点の星空となっていました。朝5時20分に荒沢登山口を出発。緩やかな勾配の広葉樹の森をたどっていきます。途中で北海道と東北北部に分布しているオクエゾサイシンという花が咲いていました。いまだ見たことがないヒメギフチョウの食草だそうです。8合目を過ぎると広い台地上の湿原に飛び出しました。多くの池塘とその間を通る木道の風景は天上の楽園といった感じですが、あいにくガスに覆われて見晴らしがありません。しかし足元にはミツガシワ、アカモノ、ベニバナイチゴ、チングルマ、ツマトリソウなどが静かに咲いていました。山頂の避難小屋を兼ねる田代神社で昼食をとり下山を開始。4合目の分岐から大広手登山口に向け下ります。途中で山菜取りの男性から、「ここのクマはおとなしい。数年前に人食いクマが現れニュースになったのは少し東の十和田湖周辺のクマだ。」という話を聞きました。大広手登山口に着くと多くの消防、警察の方が集まっていた。昨日から行方不明になっていた山菜取りの男性が大広手登山口近くで死亡しているのが見つかったそうです。クマに襲われたのではなく病死とのこと。山で会った男性のクマの話を思い出しました。

(荒沢登山口 5:20→4合目分岐 6:24→湿原 7:30→
山頂 7:55/8:15→大広手登山口 11:44→荒沢登山口 12:14)



オクエゾサイシン(写真 橋川潤)

2 森吉山(北秋田市:1,454 ㍎)

従来北海道でしか確認されていなかったクマゲラが、森吉山でも繁殖しているというニュースを約50年前に聞いてから、この山の名前は頭の片隅にありました。登山コースはいくつかありますが、ゴンドラに乗って標高540 ㍎から一気に1,170 ㍎まで上がる楽なコースを歩くことにしました。天気も良くまた花の百名山でも有名なこの山は人気のようで、始発前のゴンドラ乗車駅には平日にもかかわらず多くの登山者が集まっていました。ゴンドラを下車してすぐにシラネアオイ、ハクサンチドリ、チングルマ、イワイチョウや東北でしか見られないヒナザクラなどの花々が出迎えてくれました。山頂からは東へ雪渓を下りミズバショウやミネザクラの花を見ながら少し先の山人平まで足を延ばし引き返しました。花を見ながらのゆっくり登るのにはいい山でした。

(ゴンドラ山頂駅 9:15→阿仁避難小屋 10:00→
山頂 10:40/11:00→山人平 11:40→
山頂 12:10→阿仁避難小屋 12:45/13:05→
森吉神社 13:20/13:35→山頂駅 14:00)



ヒナザクラ(写真 橋川潤)

3 和賀岳(仙北市-岩手県西和賀町:1,439 ㍎)



和賀岳山頂 (写真 橋川潤)

森吉山下山後、温泉につかり夕食を済ませて、狭い林道を経由し薬師岳登山口の無人の避難小屋に到着。新しい立派な建物で水洗トイレもありました。翌日は5時に出発。10分ほど林道を歩くと甘露水というおいしい湧水がありここが登山口になっています。秋田杉の人工林をしばらく登るとすぐに樹高の高い落葉広葉樹の森に入り、だんだんと勾配もきつくなってきました。滝倉という最後の水場でのどを潤し、40分ほど登ると県境尾根から派生する支尾根に取付き、木々も次第に低くなってきました。そして右側(東側)は急斜面で所どころ岩盤がむき出しの雪食地形となります。ここからはウラジロヨウラク、ノウゴウイチゴ

モミジカラマツやコバイケイソウなどの花が次々に現れてきました。県境の薬師岳に上がるとこれから縦走する小杉山、小鷲倉の先に初めて和賀岳が姿を現しました。ここから小杉山までの薬師平にはイブキトラノオが咲き始めており、またニッコウキスゲは蕾をもたげ、付近一帯を黄色に埋め尽くす準備をしていました。登山開始から約6時間で山頂にたどり着き休憩、昼食としました。山頂からは北に田沢湖と雲をまとった秋田駒ヶ岳が見渡せましたが、その右手の岩手山と南の鳥海山は残念ながら雲に隠れていました。同じ道を引き返し出発地点に戻ったのは登り始めて9時間半後でした。

「和賀岳は依然として人を寄せ付けない厳しさを保っている。登山コースも未整備で、かすかに踏み固められた細い道は、けもの道と重なり合っている。」と1983年発行の「日本の名山②飯豊・朝日と東北の名山」に書かれている。40年たった現在はSNSの普及や登山ブームの再来などで登山者も多く分け入るようになりましたが、奥深い秘境であることには間違いありません。この日は素晴らしい天気であったにもかかわらず出会った登山者は1組2人だけで、静かで本当に良い山でした。

(避難小屋 5:05→登山口 5:15→薬師岳 8:05→小杉山 8:45→小鷲倉 9:25→
和賀岳 9:55/10:25→小鷲倉 10:55→小杉山 11:20→薬師岳 11:55→
登山口 14:20→避難小屋 14:35)

個人山行 7月1日(金)~4日(月)

東北遠征 早池峰山・岩手山

15616 奥田 スマ子

コースタイム

7/2 小田越登山口 8:30~五合目御金蔵 10:15~
早池峰山頂 11:35/12:15 往路下山~小田越登山口 15:00
7/3 馬返し登山口 5:30~八合目避難小屋 10:00/10:30~
岩手山頂 11:55/12:00 焼き走りコース下山~
平笠不動避難小屋 12:45/13:15~ツルハシの分かれ 14:10~
第二噴出口跡(休憩30分)~焼き走り登山口 16:50



岩手山山頂(写真 奥田スマ子)

ハヤチネウスユキソウ
(写真 奥田スマ子)

今回の山行は花の時期に天気を見計らい行ってきました。

早池峰山は盛岡駅から電車で石鳥谷駅まで行き、バス、タクシーを乗り継ぎ小田越登山口へ。

日本百名山に加えて花の百名山でもある早池峰山。緩急の岩の道に多種多様な花が咲いていて目を楽しませてくれました。なかでもハヤチネウスユキソウは見たかった花。私たちがウスユキソウを興味深く見ていた時、下山途中の人から「上の方に大きい葉っぱのウスユキソウが2株ありましたよ。」と話し掛けられました。早池峰山のウスユキソウは固有種のみと思っていた私。オオヒラウスユキソウ、ミヤマウスユキソウもあることを知りました。

翌日は岩手山へ。盛岡から車で行くとすぐに山がせまってきて、雄大な山容にこれが岩手山だと分かりました。馬返し登山口は盛岡から至近の距離でした。登りの

柳沢コースはブナの巨木もある樹林帯の道。下りの焼き走りコースはコマクサの群落がある火山礫の道。お釜巡りは体力的に断念しましたが、雪を抱いた美しい秋田駒ヶ岳の姿、第二噴出口跡からは眼下に八幡平市街や自然が広がり疲れを忘れる程、岩手山の雄大な景色に出会うことができました。

参加者2人: 奥田スマ子 他友人

🌄 個人山行 6月26日(日)~30日(木) 🌄

ばーばの山歩き(甲武信ヶ岳・金峰山・瑞牆山)

15027 森本信子

7月26日移動日、山陽新幹線から中央線特急に乗り換え小淵沢へ。

7月27日毛木平登山口から清らかな水音と共に林道歩き。ナメ滝を過ぎ小川の西沢を何度か渡り返す。流れが段々とか細くなり、ポコポコと水が湧き出す「千曲川・信濃川水源の標」が立つ広場へ。冷たくて美味な水をおいしい、おいしいと言いながら飲む。樹林帯の急坂を登る。奥秩父の稜線に出る。ガレ場の急な坂を登ると甲武信ヶ岳の山頂だ。展望良好。少し下りて山小屋へ。虫が飛び交い刺される。痛くて痒い。

7月28日甲武信ヶ岳に登り返さず脇道で三宝山に向かう。頂上は平ら。尻岩、くさり場を過ぎ、武信白岩山を巻き大山へ。またくさり場を三ヶ所無事に下る。登山道の両脇はシャクナゲが続き、遅れ花が二三輪のみ咲いていた。八丁坂の急な下りを長々と下り毛木平に着く。

7月29日瑞牆駐車場からシラカバの林の中をぬけると、理宮坂の急登。富士見平小屋の側を通り大日小屋、大日岩の側を登る。カラマツの長い登り、砂払いの頭、千代の吹上げ、断崖絶壁、視界が開ける。足元を注意しながら岩場を歩む。山荘側の急登で頂上へ向かう。ヘトヘトになりながら金峰山頂上へ着く。少し下った所に五丈岩がある。展望良し。夏姿の富士山が美しい。昼食をとり二度と来る事がないので、ゆっくりする。下りに山荘に寄り冷たい飲み物を飲む。おいしい。来た道を下り富士見平小屋へ。

7月30日小屋の側、ゆるやかな石がゴロゴロした坂道を一気に下り天鳥川を渡る。巨岩の桃太郎岩の大きな割れ目をハシゴやロープを頼りに急登する。大ヤスリ岩の岩の狭間にザックが引っ掛かり中々抜けない。岩場を登ると大きな一枚岩の瑞牆山山頂だ。眺めが良い。一休みする。下りは来た道を帰る。富士見平で冷たい水を飲み、右手の林の間から瑞牆山に見送られ下山する。

ああこれで4日間無事に山歩きが終わり、楽しくて苦しかった日々。好天に恵まれ完歩出来たことに感謝！ 汗まみれの体を洗い流し、さっぱりした気分以小淵沢駅へ。無事帰宅する。



金峰山山頂

(写真 森本信子)

🌄 個人山行 7月25日(月)~28日(木) 🌄

北海道・旭岳の花に感動

北九486 立石 シマ子

大雪山旭岳の花を見に行こうと誘われ、シニア組の女性5人と健脚男性4人(旭岳登頂)。

女性組は旭岳の花見へ。新千歳まで一ツ飛び。初日は旭岳ロープウェイで姿見駅へ。降り立つと目の前に旭岳が。地獄谷から噴煙が。雲が多く山頂が見え隠れ刻々と変わる。

やっと念願の北海道の山へ胸が躍る。姿見の池周辺をぐるりと散策。道は岩がゴロゴロ、転ばないように注意してゆっくり。残雪がありひんやりする空気の中、次々に現れる美しい花、珍しい花、可愛い花、スケッチしたり、写真を撮ったり(同好会で版画にしよう!)
チングルマ・エゾコザクラ・ミヤマリンドウ・イソツツジ・イワブクロコマクサ etc.

4日間、天気も良く広い北海道、高山植物の花々を満喫した。これからは私の体力に合った山行を心掛け楽しみたいと思った。

旭岳の コマクサ 2022.8 立石シマ子
木版画「コマクサ」 作:立石シマ子

🏔️ 個人山行 7月29日(金)～8月3日(水) 🏔️
歩いて、歩いて、歩いた裏銀座縦走



野口五郎岳山頂



鷲羽岳山頂



双六岳山頂



槍ヶ岳山頂 (写真 竹本加代子)

コースタイム：

7/30 七倉山荘 5:20<乗り合いタクシー>高瀬ダム 5:30/5:42~

ブナ立尾根登山口 6:16~三角点 2,208 葎 9:20~烏帽子小屋 11:00/11:20~

三ツ岳分岐 12:35~野口五郎小屋(泊) 14:58 *行動時間 9時間 16分

7/31 野口五郎小屋 4:30~野口五郎岳 4:45~真砂岳分岐 5:40~<東沢乗越>~

水晶小屋 8:00/8:10~鷲羽岳 10:44/10:55~三俣山荘<昼食> 11:00/11:42~

<巻道コース>黒部五郎小舎 14:08 *行動時間 9時間 40分

8/1 黒部五郎小舎 3:20~三俣蓮華岳 5:33/5:47~双六岳 7:08/7:15~

双六小屋 8:10/8:20~縦沢岳 9:02~硫黄乗越 9:45~左俣乗越 10:54~

千丈乗越 12:20/12:28~槍ヶ岳山荘 13:35 *行動時間 10時間 15分

8/2 槍ヶ岳往復 5:40/6:40 槍ヶ岳山荘 6:50~大曲(水俣乗越分岐) 9:08~

槍沢ロッジ 10:03/10:18~横尾 11:45/12:00~徳沢 12:50~明神 14:52~

上高地バスターミナル 14:52~<15:15バス乗車>

*行動時間約 9時間

ついに達成・裏銀座縦走

14852 竹本正幸

早くから計画に上がりながら、なかなか実行できなかった裏銀座縦走をついに達成しました。ブナ立の登りと長時間の行程を歩くだけの体力があるか。年齢からくる体力的不安。

今回はメンバー全員が早くからトレーニングに取り組んだこと、装備の軽量化を工夫したことが功を奏した。

ブナ立を登るとき出会った人に「山は年齢ではないですよ、体力ですよ」と言われたことが強烈に響いた。その山に登るだけの体力があるかが問題である。「トレーニングをすれば、まだまだ行ける」と自信につながる山行になった。

山行全般を通して天候に恵まれたこと、誰一人不調を訴えず良く歩いたこと、若い真希ちゃん存在でみんなが明るく楽しい登山ができ、感謝、感謝です。

若者に元気をもらって

14853 竹本加代子

今年の夏山山行は何かが違う。明るい！みんな元気！バテない！きっと紅一点の若者がいたからだった。「おっさんズ」のマドンナ宮本真希さん、彼女と共に笑い、感動し歩いた4日間。若者よ！共に歩きませんか！大歓迎です。シニアは小屋泊り、若者はテン泊。あります。この度の裏銀座縦走はコロナ禍で予定していた山小屋の予約が取れず、三俣山荘より巻道コースを経て黒部五郎小舎の宿泊を余儀なくした。故に長くハードな行程となった。そんな行程を忘れさせてくれる稜線歩きの醍醐味は圧巻の眺望で山々は名峰ばかり、瞼を閉じれば蘇る。中でも槍・穂高連峰の全景にはくぎづけになる。そんな感動は思い出となり心に深く刻まれた。地図を読み、現在地を確認し、励まし合い、共に歩いたメンバーに感謝です。

北アルプス裏銀座コースを歩いて**15806 清家幸三**

体力コースのイメージ通りのコースが4日間続いた。すれ違う登山者から羨望の意味合いが込められ「いいコースですね」と声をかけられた。2日目から下山日まで贅沢なコースを実感した。1日目に雨にあったり、3日目に気力だけの時間帯も経験した。槍の肩では涙腺がゆるんだ。天候にも恵まれ北アルプスの裏銀座を堪能できた。同時にメンバーにそして竹本CL、SLに感謝の言葉が刻み込まれた山行でした。

北アルプス 裏銀座縦走**15714 縄手 修**

今回裏銀座縦走と言うことで久住山や福智山、国見岩での岩場のトレーニングなどを重ね準備万端で7月29日当日を迎えました。

7月30日七倉山荘から野口五郎小屋に向かう途中雨に降られウェアを着替えしました。普段は持って行かない着替えを今回は何故か持っていたので良かったです。

7月31日野口五郎小屋を出て朝から少し頭が痛く前日のアルコールが残っているのかなと思っていたのですが黒部五郎小舎に着いた頃には食欲もなくなっていました。小舎の踊り場の掲示板に高山病について症状が幾つか書いてあり自分が高山病になっていることを確信しました、そこで私は2時間寝ないで30分間連続で深呼吸をしました。すると血中酸素濃度が80%台から95%位に回復したので安心して寝ることが出来ました。

8月1日体調もほぼ回復し槍ヶ岳山荘を目指す事が出来ました。

8月2日槍ヶ岳山頂では念願の小槍の写真を撮ったため、山頂での他の写真を撮ることを忘れてしまいました。

裏銀座 いざ出発！**15710 町元里香**

裏銀座山行に向けて訓練を重ね、装備も体調も万全の状態、いざ出発！ 今回は総距離50㎞を超える。初日は頑張りエールで励まし合いながらブナ立尾根登り切り、雨の中の稜線で低体温症をおこさないよう皆で力をあわせた。二日目は富士山からエールを貰い、明日会える槍ヶ岳にラブコールを送りながら、野口五郎岳、鷲羽岳に挨拶をし、三俣山荘へ。昼食は楽しみにしていたジビエ丼でエネルギーをチャージし、黒部五郎小舎に到着。管理が良く、凄く行き届いた過ごしやすい山小屋です。明日は頑張らねば！ 午後からは天

気が崩れる予報です。千丈乗越までは天気が崩れないように！ と祈っていたら、神様が味方してくれました。素晴らしい景色の三俣蓮華岳、双六岳。槍ポーズも決まりました。北鎌尾根の眺めは圧巻でした。予定より早く槍ヶ岳山荘に到着。至福のビールで乾杯。ガスで姿を見せてくれなかった槍ヶ岳も翌日には朝日の中に穂先をガンと見せてくれました。最終日、槍の穂先を目指し、いざ出発！ 上高地では磯野さんにもお会いできて最高でした。今回、皆で力をあわせて無事に最後まで歩けたこと、無事にこの山行を素晴らしいものにすることができたことに本当に感謝しています。有難うございました。

はじめて挑戦したアルプス！**北九 531 宮本真希**

山登りと出会って2年半。ついに念願であったアルプスに挑戦することができた。それまでの訓練もみなさんにサポートしていただき、少し自信を持って出発の日を迎えることができた。初日は、計画の時から覚悟していたブナ立尾根をなんとか登り切ると、



槍ポーズ(写真 町元里香)

稜線で雨にあった。雨の中、ただひたすら山小屋を目指して歩き、野口五郎小屋に到着。こんなところに山小屋があり、待っていてくれる人がいることに涙が出そうな思いだった。2日目は野口五郎岳での素晴らしい日の出からスタート。天気にも恵まれ、アルプスのパノラマに感動しながら歩くことができた。夜ご飯をたくさん食べて次の日のエネルギーをチャージ。そして槍ヶ岳に挑戦する勝負の3日目。槍の肩までの道のりはこれまで経験したことのないくらい自分と戦い、あのキツさはこの先も忘れることができないだろう。次の日の朝、槍ヶ岳の山頂にもいくことができ、あまりの高さに足が震えたが、感動で心も震えた。

初めて目にしたアルプスの素晴らしい景色の数々、辛かった思い出もすべて含めて、今後の自信につながる山行になった。初めて挑戦するわたしをみなさんが気遣ってくれ、励ましの言葉一つ一つが本当にわたしの力になり、アルプス最高！ また行きたい！ と思わせてくれたみなさんに感謝しかありません。本当にありがとうございました。

🌋 個人山行 8月25日～9月2日 🌋

北海道東の山に感動！！

16601 藤原 玲子



雌阿寒岳 青沼 (写真 藤原玲子)

8月25日から車とフェリーを使い北海道東の山（羅臼岳、斜里岳、雌阿寒岳）に行ってきた。

27日28日と最初に登る予定の羅臼岳は天気が悪く、小清水原生花園や網走監獄、羅臼、野付半島を観光しました。29日はやっと晴れて斜里岳に登ります。清岳荘登山口から出発し、15分程歩くと沢沿いの道になり何度も渡渉しながら進みますが、だんだん水量も多くなり、じわじわと難度も増してきます。1時間程で旧道（沢コース）と新道（尾根コース）の分岐があり、景色の良い尾根コースを選択。熊見峠からは摩周湖が見えて気持ちの良いハイマツ帯の中を進み、上二股からは胸突き八丁と言われるガレ場を通り、やっと馬の背に着いて頂上を見上げた時は急登で最後の登りに気合を入れ直し、あと30分の頂上を目指しました。頂上からはオホーツク海、その手前には斜里町の畑がパッチワークのようにきれいに見えます。そして遠くに羅臼岳・・・太平洋側は国後島も見え大パノラマの素晴らしい眺望でした。

30日は雌阿寒岳です。雌阿寒岳温泉登山口に行く途中、摩周湖に立ち寄り、早朝に見た摩周湖は深い青色をした神秘的な湖でした。雌阿寒岳は1合目～3合目はアカエゾマツの林で、4合目あたりで森林限界となり5合目から広大な樹海と「オンネトー」の湖を眺める事が出来ました。8合目からは黄色の砂れき道で9合目からは岩石ばかりですが、一歩一歩登るにつれて景色が変わり茶褐色した溶岩がむき出しになっている火口湖の「赤沼」がとても印象的でした。雌阿寒岳山頂からは、もう一つの火口湖「青沼」や噴気口からもくもくと立ち上がる噴煙など、火山が創り出したダイナミックな景色に圧倒されどこか違う場所に迷い込んだ感じの山でした。



雌阿寒岳 赤沼 (写真 藤原玲子)

メインの羅臼岳には登れませんでした。斜里岳と雌阿寒岳はそれぞれ違う特徴のある山なので最後まで飽きないワクワクする山で楽しかったです。

帰りは苫小牧港から敦賀港までフェリーに乗り多賀SAで仮眠し、途中SAで休憩しながら安全運転で帰りました。運転手の皆さん運転ありがとうございました。

🌋 個人山行 10月11日(火)～14日(金)

西穂高から北穂高までテント泊縦走(単独)

北九 529 平野 喜義

コースタイム：

- 10/11 JRで小倉駅から飛騨高山～バスで新穂高ロープウェイ～西穂高口(西穂高口から西穂山荘までは90分)
- 10/12 西穂山荘 6:00～西穂高岳 9:00～間ノ岳 11:30～ジャンダルム 14:45～
奥穂高岳 15:30～穂高岳山荘 16:30
- 10/13 穂高岳山荘 7:00～涸沢岳 7:45～北穂高岳 11:30～涸沢ヒュッテ 14:30～横尾キャンプ場 16:30
- 10/14 横尾キャンプ場 6:00～上高地 8:15 バスで松本駅～JRで小倉駅(帰宅)

1日目。朝イチの新幹線で出発したが到着は夕方。初日はほぼ移動で終わり。

2日目。4時出発の予定だったがうっかり寝過ごす。西穂山荘から西穂高岳の間は快適な稜線歩きを勝手に想像していたが全然下調べもしていなかったが、実際は8つほどの岩峰を越えながら登るそこそこに険しい稜線歩きだった。西穂高岳山頂からこれから行くルートを目で追うと、今まで見た事のない険しい山容と、数日前に積雪していたので一応冬山装備も御守りに持ってきていたので今回、ザックの重量が22kgを超えており、重量でバランスを崩しやすく、ペースも上がらないので内心怯んだが、まあ大丈夫だろうと進んだ。先行者が誰もいないのも不安だった。去年の地震の影響か、西穂高～ジャンダルム間はかなり岩が崩れており、時折ル



ジャンダルム

(写真 平野喜義)

ートファインディングに時間を割いた。不安定な浮石も多く、時折雷のような落石音が聞こえてくる。特に切れ落ちたザレ場は、片足をのせただけで大きな岩崩れをおこすので、ここを通る方はルートをもつてもザレ場には足をふみいれないほうがいい。ジャンダルム～馬の背～奥穂高岳の間も3,000mの高度感の中、細い岩稜を登り降りするので緊張は続く。ジャンダルムは下のコルに荷物をデポして登ったので快適だった。穂高岳山荘に着いてからも今日味わった恐怖がずっと抜けず、夜中何度も目が覚めた。

3日目。穂高岳山荘～涸沢岳までは岩稜歩きではあるが歩き易く、今日は快適かなとほっとしたが涸沢岳～北穂高間は要所に鎖はあるのだが九州ではお目にかかる事のないスリリングな鎖場ばかりだ。一向に軽にならないザックに振り回さ

れながらゆっくり登り降りを繰り返し、北穂高岳に着く頃には岩稜歩きにウンザリしていた。北穂高～涸沢間も結構な急斜面を一気に下るのでまだまだ緊張が取れない。

今回の登山では、山頂でもほとんど人と会うことが無く、記念写真をおねがいすることも出来なかったが、涸沢だけはたくさんのテントと人で賑わっていた。よくテレビや写真で見る涸沢の紅葉も、今年はイマイチとのことだったがそれでも十分キレイだった。涸沢から横尾までは今までと打って変わって素晴らしく整備された道だった。

今回は自分にとってはかなりハードな山行だった。昨年、槍ヶ岳に登っていたので同じような感じだろうと思っていたが穂高の山々の方が格段に難易度を高く感じた。コースタイムも当初の予定をオーバーしたし、次回は荷物を15kg以下にしてもう一度来てみたいと思ったが、西穂高～奥穂高間は何度も来る場所では無いなと思う。

しかし圧倒的な雲海、オレンジに染まる夕日や夜明けの景色はやはり来てよかったと感じる。

挑戦する方はとにかく荷物は軽い方がいいだろう。



前穂高北尾根

(写真 平野喜義)



個人山行 11月2日(水)～4日(金) 大杉谷～大台ヶ原縦走



秘境を歩く ～エメラルド色の滝つぼと爆音が続く～

15710 町元 里香



桃の木小屋 (写真 竹本正幸)

阪九フェリーで出発。1週間ほど前から天気予報と睨めっこする毎日。今年は10月の天気が不安定で、諦めざるを得ない山行が続いた。11/2からは天気が回復することを見込み、決行することにした。登山口での天気はますます。昨日までの雨の影響で登山道が滑りやすいため、鎖を持って慎重に歩くことをお互い確認し合って出発。

今回の山行は今年の5月頃から予定していたが、かなりの秘境のため、登山口

までと下山口からのアクセスが大変で、一度は縦走を諦めピストンにすることに決めた。しかし、どうしても納得がいかず、色々な方法を考えた。最終的に三重県のタクシー会社の方からのアドバイスで、榛原駅の駐車場に車を置いて、そこから大杉谷登山口まではタクシーで移動、大台ヶ原からはバスと電車を利用して元の駐車場まで戻るという縦走の計画をたてることができた。

シシ淵 ～奥はニコニコ滝～
(写真 竹本正幸)

大杉谷は日本三大渓谷のひとつ。関西の屋久島と呼ばれる水と緑が美しい谷。昨日までの雨で滝の水量が多く、轟音と素晴らしい絶景を楽しむことができた。エメラルドグリーンの滝つぼにも感動の連続。思わず名前を付けてみたくなる名の無い滝が沢山あった。吊橋も11本もあり、渡るたびに“ハイポーズ”。

最終日には西大台ヶ原を散策した。西大台ヶ原は1日当たりの立入り人数が決まっています、立入り前には事前レクチャーを受講することが義務付けられている。静かな自然の中でコケ博士になりながら、ゆっくりとした時間を過ごすことができた。宿泊所の名前のとおり心の湯治もすることができた。

いつも個人山行後には、一緒に歩いた仲間感謝の気持ちで一杯になる。楽しい時間を有難うございました。



堂倉滝 (写真 竹本正幸)

- 11/2 大杉谷登山口～千尋滝～シシ淵～ニコニコ滝～平等グラ～桃の木山の家
11/3 桃ノ木山の家～七ツ釜滝～隠滝～崩壊地～光滝～堂倉滝～栗谷小屋～日出ヶ岳～大蛇グラ～心・湯治館
11/4 西大台ヶ原散策

参加者5人：竹本正幸 竹本加代子 縄手 修 清家幸三 町元里香

個人山行 11月5日～7日 大台ヶ原山(1,695 ㍎) 御在所岳(1,212 ㍎) 奈良と三重県の紅葉登山

北九 532 大山 時彦

- 11/5 15:00飯塚集合～17:30フェリー新門司港(フェリー宿泊)
11/6 6:00大泉港着～レンタカー移動～10:00大台ヶ原登山口～15:30下山口～
17:30ホテルAZ 三重名張(入浴、近くの居酒屋で夕食懇親会)
11/7 6:00起床ホテル朝食後、御在所登山口へ出発～9:30登山口～頂上。
翌日仕事で他のメンバーと分かれ、中部国際空港より帰省、他のメンバーは観光等で9日帰省

今年は秋の紅葉がここ2～3年で何処も綺麗と感じていましたが奈良や三重県の紅葉等見たことがなく登山仲間で計画の話があり、予定は往復フェリー2泊で4泊5日の計画でしたが私だけ仕事の関係で2泊3日のコースの参加となりました。大台ヶ原山は行く前の情報では、百名山で屋久島と同様に雨の多い山で、雨天の確率も高く、雨もありで準備した方がよいとのことでした。5日、行きは土曜午後に、飯塚出発で夕方の新門司フェリーでゆったりした雰囲気、昔のフェリーはエンジン音等で寝苦しい感じでしたが、今は個室ベットとレストラン、露天風呂まで付いてホテルに泊まりながらの船旅で、本州への登山には安心して利用できると感じました。早朝、6時に泉大津港に着き、10人乗りレンタカーで6日の目的地、大台ヶ原山登山口へ向いました。天気も晴でよい登山日と心弾ませ車中登山



日出ヶ岳山頂 (写真 大山時彦)

談義で予定通り9時半には登山口ビジターセンター駐車場に着きました。さすがは奈良の百名山、駐車場は満車で警備員も配置され、何とか駐車でき登山準備して、10時に登山開始、紅葉時期は登山者も多く、また百名山は何処も登山道整備がされて木道が配置されて登ると言うよりハイキングの表現の方があっているスタートでした。途中にも沢山の木造休憩場所もあり小学生等の親子連れがスニーカーで気軽に紅葉散策を楽しん



御在所岳山頂 (写真 大山時彦)

でました。約1時間でこの山の山頂、日出ヶ岳1,695㍍に着き、昼食には少し早くアップダウンの山道を進み、昼食のできる広場、牛石ヶ原には大きな神武天皇像もあり、穏やかな秋晴れの中で、約1時間昼食タイムを楽しめました。昼食後は約1時間半、紅葉の絶景ポイントの大蛇ヶ岳、シオカラ谷を通り東大台ヶ原完全クリアコースで出発地点の駐車場に戻り、1日目の軽めの約4時間の紅葉登山を楽しめました。

下山後は三重県の方へ移動、約2時間で宿泊先のホテルA Z三重名張に着き、夕食は近くに居酒屋を紹介して頂き皆さん登山疲れが少なかったのか飲酒の方も進み盛り上がりました。宿は格安のビジネスホテルで十分でした。翌7日は、ホテル朝食後7時に次の御在所岳に向かって出発、この日も秋晴れで当初の天気不安は全くなく登山に集中できました。9時半に御在所、中登山道口に着き、この山も三重を代表する紅葉山で山頂迄ロープウェイも伸びて観光名所でもあります。ここは「登る」に拘り、急登コースを選び、昨日とは違って変わり30分で汗びっしょりとなりましたが、やはり装備からこの位のきつさは願うところでした。途中休憩を入れながら約2時間半で山頂の御在所岳1,212㍍に登頂できました。全員登頂後、ロープウェイの到着駅でもある四方八方見晴らしの良い休憩所で昼食を楽しみました。ここで、私は帰りの飛行機の時間があり、下りはロープウェイを利用して下山し、他のメンバーは下山コースを使い湯の山温泉ホテル宿泊、翌日観光コースとに分かれました。私の帰途は三重近鉄～名鉄名古屋～中部国際空港～福岡空港～JRふく豊線で飯塚着は21時半で奈良、三重の紅葉登山を十二分に満喫できました。好天と綿密な安全登山計画をたててくれた登山仲間感謝して3日間の山旅は無事終了しました。

参加者：大山時彦 他友人7人 計8人(60代後半～70代後半男女)



一等三角点研究会秋季例会報告



13643 関口 興洋

目的地： 北海道の道東地区、川湯温泉、藻琴山(999.89 ㍍)

期 日： 2022年10月1日(土)～2日(日)

2020年の春季例会の開催場所として計画されていたが、コロナ禍のため中止となりようやく2年越しに秋季例会として開催された。北九州支部から6人参加。

10月1日、福岡空港～千歳空港～女満別空港着。空港からレンタカーで藻琴山の優美な山容を眺めながら屈斜路カルデラの外輪山にある標高525㍍の美幌峠に向かう。展望台から屈斜路湖、斜里岳までの大展望を楽しみ会場の川湯温泉へ。

10月2日、天候は曇り。8時前に宿を出発し藻琴山の登山口に向かう、総勢28人。本日は中腹から山頂までガスにすっぽり覆われ、山頂での展望は期待できない。宿から約1時間で標高725㍍の登山口(ハイランド小清水)に到着。高畠さんは休憩所で待機。ガスで周辺の展望は全くきかないが雨模様ではないので一安心。9時10分出発。登山道はハイマツの中、緩やかな傾斜で頂上へ伸びている。頂上手前に一部岩場があり、そこを抜けると頂上まであと僅かとなる。三角点のある頂上部は狭いので下の平坦な場所にザックをデポし軽身で5分ほど登ると頂上である。岩稜部に埋め込まれた円形の金属製の三角点が設置されている。いわゆる標石ではない。狭い岩場に全員が折り重なるようにして記念の集合写真を撮り直ぐに下山開始。天候に恵まれれば、360度の大展望をエンジョイできたのと思うと誠に残念であった。ハイランド小清水に正午ごろ戻り昼食をとるころにはガスが切れだし眼下の屈斜路湖、東南の摩周岳斜里岳が視界に入ってきた。ここで解散した後、お天気が回復したので摩周湖の観光に出かける。第一展望台からの景観は見事であった。カムイヌプリ(摩周岳)、湖中のカムイシュ島など摩周湖の大パノラマを目に焼き付け川湯温泉に戻った。



藻琴山登山口

(写真 伊藤Q)

参加者：原 広美、伊藤久次郎、井上禮子、高畠拓生、関口興洋、花田拓二

「上高地へのお誘い ―上高地インタープリター活動の紹介―」

13533 磯野文雄

昔、上高地は起点であり、終点でした。起点としては、バスから降りて、明神、徳澤、横尾へと小走りに急ぎ、槍沢か涸沢へと入って行ったものです。終点としては、徳澤あたりからバスの発車時間が気になりだして、やはり小走りに急ぎました。つまるところ、上高地で観光客のようにコーヒーを飲んだり、泊まったりすることは、憧れであったのです。

他方で、日本山岳会には、「山の自然学研究会」(略称:山研/会報「山」917号、「やま学研」とも)という、同好会があり、上高地において「インタープリター活動」を25年間続けています。野外におけるインタープリター(翻訳者)とは、自然の通訳をする人と考えてください。ガイドさんとの違いは、安全に山頂を目指して登山をするとすれば、山岳(登山)ガイドさんに依頼することになる、というところでしょうか。

上高地における山研のインタープリター活動は、①ミニトークと②ガイドウォーク、のふたつです。ミニトークとは、アルペンホテル、温泉ホテル、西糸屋の3つのホテルで、食後のひと時(1時間ほど)、宿泊者にたいして自然解説を行います。翌朝、西糸屋のまえて、ガイドウォークの参加者の募集をします。ガイドウォークは、河童橋から明神まで、ゆったりと歩きながら自然解説をするものです。

さて、本題です。今回、山研の源原代表の誘いを受けて、まったくのド素人が、ウカウカと甘いお誘いに乗ってしまった2泊3日の楽しい旅の報告です。

6月11日(土曜日)の午後1時、上高地の公園活動ステーションに総勢21人が集まりました。責任者は大森弘一郎さん、幹事は源原重行さん、講師は目代邦康さん(東北学院大学准教授)です。(そうそう、横山秀司先生(当支部、自然保護委員長)へ、目代先生から、「よろしくお伝えください。」、とのことでした。)

この日は、午後からということもあり、河童橋から田代橋までの自然観察となりました。この日の(磯野が理解できた範囲の)講義項目(以下同じ)は、①堆積錐(たいせきすい)②上高地の地形③3種類の石④流れ山である。

- ① **堆積錐**とは、土砂崩れによって土砂が円錐状に流れ出た地形のことで、上高地では至る所にこの地形を見ることができる。また、梓川の流れにも影響を与えている。(川が曲がりくねっていたり、いくつもの川筋ができていたりする。)
- ② **上高地の地形**は、260万年前に、周りの山々から落ちて来た土砂が堆積して、この細長く平らな地形を形作った。最近の研究によれば、300年くらい土砂が積もっていることが分かったそうである。おそらく、標高1500mの高地で、これだけの長さのある平らな地形(平坦地)は、日本一か。
- ③ **3種類の石**とは、梓川の河原にある、緑色、黒色、白色の三色の石で、それぞれ閃緑斑岩、泥岩、花崗岩である。「これらの石が、どこからやってきたのかを考えると、ワクワクしてロマンを感じる。(大森氏談)」とのことである。これを意識すると、「梓川の周囲には、異なる地質の山々があり、そこから流れ落ちた岩塊が砕け、谷を埋め尽くして、現在の梓川が流れている。」(磯野訳)ということ、でしょうか。
- ④ **流れ山**とは、山体が一気に崩落して、流れ落ちた膨大な量の土砂が、山麓につくった大小さまざまな小山のことである。上高地(田代地域)の場合は、焼岳が噴火して田代橋周辺に流れ山を作っており、見ることができます。

「象潟や雨に西施がねぶの花(芭蕉)」(磯野意識:象潟は絶景だ。雨に濡れる合歓の木のように、また、西施(中国の美人)のように美しく憂いに満ちている。)

何がいいのかというと、秋田県にかほ市象潟(きさかた)は、紀元前466年に、鳥海山が、山体崩壊による「流れ山」が、日本海に流れ込み、浅い海と小さな島々ができ、その後の堆積作用によって、小さな島々に松などの植物が生い茂って、現在の美観を形作った、ということです。つまり、「流れ山」を見ている、ということです。

このコースには、当会というよりも我が国の「登山」に多大な影響をウェストンのレリーフがあります。毎年信濃支部主催の「ウェストン祭」が、このレリーフの前で行われている。このレリーフは滝谷花崗閃緑岩に埋められていて、その花崗閃緑岩は、穂高連峰の有名な登攀ルート「滝谷」まで、地中でつながっているそうである。

翌日は、河童橋から明神池までの往復を自然観察した。正直に言えば、片道1時間で歩く明神までのコースを4時間かけて歩くのは、多少の忍耐を要した。ともあれ、このコースは、地質に加え植物と動物が加わった。河童橋から白樺荘の前を通り右岸を歩き始める。今日の講義項目は、①河童橋②梓川③カール(圏谷)④岳沢湿原⑤動物⑥植物⑦ケショウヤナギ⑧嘉門次小屋⑨崖錐です。

- ① 河童橋を渡ったことは、一度しかなかった。それはともかく、吊り橋であるために、吊り橋と同じ重さで吊るためのロープを支えなければ、落ちてしまう。では、どこにあるか？答えは、橋のたもとに10メートルほど土を掘ってコンクリートの塊が埋めてあるそうである。
という話の前に、明神岳から前穂高岳、吊り尾根。奥穂高、ジャンダルム、西穂高岳と続く穂高連峰の絶景を十分に楽しんだことは、言うまでもありません。
- ② 河童橋がかかる梓川は、現在、上高地から長野県側に流れていますが、かつては岐阜県の平湯側に流れていたそうです。それは、焼岳を中心とする焼岳火山群の活動が、高原川(平湯川)に徐々に土砂を埋積し平坦化させることによって、水流はより低いところを求めて流れていった結果、とのことでした。そういえば、釜トンネル付近を境とした梓川の流れよりも、平湯方面へと流れる方が、滑らかな流れとなるように思われます。
- ③ カール(圏谷)は、氷河が谷を埋め尽くし、周辺の斜面を削りながら流れ下ります。こうしてできる地形をカール(圏谷)といいます。北アルプスでは涸沢のカールが有名です。では、岳沢は？岳沢はカールに近い形状をしていますが、涸沢のように、はっきりとしていません。岳沢の氷河は周囲の斜面から雪崩がおきて谷底に氷河を形成した、と考えられています。氷河は、かつて明神や河童橋付近にまで流れ下っており、上高地の地形はその名残と考えている研究者もおられるとのことでした。
- ④ 岳沢湿原は、日本山岳会の上高地山岳研究所の前を通り過ぎてしばらくあるくとあります。岳沢湿原だけではなく、田代湿原など上高地には、大小の湿原を見ることができます。ではなぜ、湿原ができるのか？それは、梓川の流れの緩いところを、周辺の山から落ちてくる土石流の緩いところが堰き止めてできるのだそうです。湿原に咲くレンゲツツジの橙色やニリンソウの可憐な白色などに眼を奪われて、それ以外の説明は、聞き逃してしまいました。
- ⑤ 動物を見ました。鳥類はマガモとカケス。ニホンザルを見ました。ニホンザルは、我々をおそれることなく、30メートルよこをすり抜けていきました。散策路には、至る所に糞が落ちていますので、注意してください。また、出会いませんでしたが、6月12日の12時頃に、梓川の右岸で、ヒグマとのニアミスがありました。その少し前に、そこを通ったことでした。
- ⑥ 植物です。ポーっとしてメモすることを忘れていたものもありますが、レンゲツツジ、ツマトリソウ、ベニバナイチヤクソウ、ヤグルマソウ、カラマツソウ、ニッコウキスゲ、ニリンソウ、ラショウモンカズラ、サンカヨウ、タチツボスミレ、ホンシヤクナゲ、キスミレ、コバイケイソウ、ズダヤクシュ、ツルネコノメソウ、マイズルソウ、ユキザサなどを観察しました。
- ⑦ ケショウヤナギは、シラカバやダケカンバと並ぶ上高地を代表する木本です。立ち止まっただけの講義中に、何気なく、これはケショウヤナギですね、と確認をしたところ、軽々には確認できない、との回答です。梓川の川岸にある柳は、全てケショウヤナギと思っていたのですが、間違いでした。その失敗談を紹介しましょう。
ヤナギ類は、世界で300種、日本に70種、上高地には10種あるそうです。ケショウヤナギ(全縁又は細かい鋸歯があり裏面が白色)、エゾヤナギ(縁に細かい鋸歯)、オノエヤナギ(鋸歯裏面には短い毛がはえる)などが代表であると案内板に書かれていました。ケショウヤナギは、上高地の梓川周辺と北海道にだけ生育するのだそうです。
- ⑧ 嘉門次小屋は、明神池の入り口付近にあります。嘉門次は、前述のウェストン碑のウォルター・ウェストンを案内したことで、山案内人として有名になりました。ウェストンは、嘉門次のことを「ミスター・カモンジ」と呼び、その卓越した山での技術と身の軽さを称えています。嘉門次小屋の目にレリーフがあったので、会釈をしたのでした。ここでの昼食は、イワナ定食でした。
- ⑨ 崖錐。梓川の左岸を歩いていると急な崖から落ちて来た円錐状の堆積地形に出くわします。六百沢です。崖錐は、主として角ばった礫からなり、傾斜が30度から40度にもなります。この円錐状の堆積地形を崖錐と呼びます。六百沢から押し出された土砂は、梓川の流れを対岸へと押しやっています。では、崖錐と扇状地の違いはどうでしょうか。扇状地は山から平野に向かって押し出された扇状に広がる半円の地形です。安定した地盤ですが、崖錐は不安定な地盤だそうです。

二日目ともなると、互いに打ち解けて話も弾むようになります。杉山さんは森林インストラクター、千葉支部の津田さんは、「パークボランティア」で、歩きながらゴミを拾われていました。小野さんはとても熱心に質問をされ博識に圧倒されました。斎藤さんはチョウ類の卵をさがしてありました。金子さんは植物の写真を撮られつつ磯野の質問に答えていただきました。終始同行していただいた三尾さん夫妻には、三日間を通してお世話になりました。富山支部の事務局長河合さんはナチュラリスト、地質にも植物にも詳しくルナールの「博物誌」を想起しました。心中で「歩く博物誌」と思っています。

公園活動ステーションの3階には、囲炉裏があります。おいしい晩御飯のあとに、三々五々集まっての酒盛りは、楽しいものでした。田井さんは日本自然科学写真協会の監事、同じく写真をこよなく愛する下島さんは今回の研修会の最高齢者でした。松川さんは多摩支部で「高尾の森」で活動中、長谷川さんは登山ガイド、浅見さんと篠原さん、諫山さんは山の自然学クラブで勉強中とのことでした。下田さんは昆虫少年。本日の研修はさておき、皆さんの話は尽きませんでした。

三日目の最終日となりました。記念に、公園活動ステーションの前で、記念撮影。皆さんの総意に基づいて、この集まりを「上高地クラブ」としました。

この日は、大正池からのコースとなりました。バスターミナルから、いったん大正池へと下りて、大正池から、あらためてバスターミナルを目指しました。この日の講義項目は、①焼岳②大正池③田代湿原④上高地です。

- ① **焼岳**は、長野県と岐阜県にまたがる標高 2455 ㍎の山である。活火山であり日本百名山。およそ 3 万年前から活動が始まり、1 万 5 千年前に溶岩円頂丘（溶岩ドーム）ができたと考えられています。その後、侵食や噴火によってその形が崩れかかっています。上堀沢、中堀沢、下堀沢の谷筋が侵食の様子を物語っています。焼岳が最後に噴火したのは、昭和 37 年のことですが、もっとも有名なのは大正 4 年の噴火です。この噴火で、大正池ができました。
- ② **大正池**。大正池を見たときに、水没した枯れ木の数が、50 年前よりも少ないように思いました。そりや当たり前だわ！木も枯れるわと、ひとりゴチたのでした。
ともあれ、大正 4 年の焼岳の噴火により梓川が堰き止められて大正池ができました。初日の梓川の項でも書きましたが、梓川は絶えず周囲の谷から、雪崩や水流、重力によって運ばれた岩塊や岩屑で埋没しつつあります。その下流大正池にも絶えず土砂がたまり、大正池では、シーズンオフには、浚渫（しゅんせつ）船による浚渫作業が行われています。
- ③ 大正池から自然歩道を河童橋に向かって歩いてゆくと、明るく開けた地形に出会います。**田代湿原**です。田代湿原は八右衛門沢などの土砂によって梓川が堰き止められてできた湿原です。そもそも「田代」とは田んぼのことです。湿地に咲く草花を稲に見立てて田代と名付けられたものと思われます。透明度の高い清流にバイカモがしなり、湿原にニッコウキスゲ黄色ややレンゲツツジの橙色が美しく輝いていました。この日も、空は高く晴れ渡り、明神から奥穂・西穂、岳沢が見えました。皆で記念写真を撮りました。
- ④ さて、**上高地**です。初日では、上高地の地形について簡単にかきましたが、ここでは、「わが心の上高地」について書きたいと思います。

上高地に初めて降り立ったのは、18 歳のときですから、ちょうど 50 年ほど前になります。高校では山岳部でしたから、九州の山ばかりではなく穂高や槍ヶ岳のことも知っていました。その入り口が上高地でした。修学旅行で、河童橋に立った時に、明確に、その先にあるものが見たい、と思いました。そして「その先にあるもの」を求めての旅が始まりました。

それから 50 年、各地を旅しましたが、次第に「その先」にではなく「その地」に関心に移ったことに感慨を覚えます。今「我」が立つこの地とは何か、これまでに何気なく通り過ぎた様々な土地の風俗や歴史や成り立ちを考えつつ、これからの旅を続けたいと思っています。

柳絮（りゅうじょ）とぶ山旅終えし河童橋（拙句：句会にて落選）

さて、皆様へお誘いです。**上高地をゆっくりと散策してみませんか。**毎年 8 月には、上高地インタープリター活動が行われています。上高地に少しの間とどまって上高地の自然を学ぶ。しかる後、横尾から涸沢へ、あるいは槍沢へと向かうこともできます。「やま学研」や「上高地クラブ」は、上高地の自然保護を博物誌や地質学を切り口として、様々な角度から上高地を研究しています。登山の対象である「山」そのものについても学ぶことができます。そしてメンバーの方々との知識の交流も楽しみの一つかと、思われるのです。

友垣と記念の写真雲の峰（拙句：同上）

◆◆ 版画同好会の活動 ◆◆

13499

伊藤久次郎

○ 公募田川美術展で県知事賞

木版画「想い出の槍ヶ岳」伊藤久次郎作
(氷河公園からの風景)

2022年10月18日から開催された第57回公募田川美術展の洋画部門に、木版画「想い出の槍ヶ岳」を出品したところ、思いもかけず県知事賞(賞金1万円付)と会友推挙を戴きました。田川市は私の住居地でありますが、地元の美術展には版画部門がなく、今まで出品しておりませんでした。田川美術協会からも強く勧められて今回応募したものです。



木版画「今日も元気な桜島」伊藤久次郎作

○ 筑豊美術展にも出品

同じく昨年11月15日から直方の谷尾美術館で開催された「筑豊美術展第1期」では、版画部会員として木版画「今日も元気な桜島」を出品しました。これも「想い出の槍ヶ岳」と同じく、昔、撮った古い写真から大きくスケッチしてアレンジしたものです。

○ 今年、版画同好会員も出品の意欲あり！

田川市美術館玄関前
(写真 伊藤久次郎)

私が田川美術展で受賞したことで、同好会の皆さんが花束を持って私の作品を見に来てくれました。又、同好会員の皆さんも今年はいろんな版画展に出品する意欲が湧いてきており、さらに活動が活発になるよう期待をしています。



柳庵にて (写真 伊藤久次郎)

○ 「山の日」記念木版画展(柳庵)



板院展の小作品展に、2人が受賞！

版画家棟方志功に始まる一般社団法人日本板画院の「第71回記念板院展」が本年も東京都美術館で開催され、会員以外の一般から募集した小作品展に、日本山岳会北九州支部版画同好会員の2人が佳作賞を受賞し、期間中美術館に展示された。今回の記念版画展には、その作品も特別に展示。また今回から淡彩画・水彩画・油絵なども展示した。

柳庵と野副さんから
お祝いの花

日本山岳会本部よりの協力依頼

公益社団法人日本山岳会の本部より、2件の依頼が届きました。
北九州支部はこれに協力することを、11月の役員会で了承しました。

依頼①

北九州支部 横山秀司 様

突然のご連絡で失礼いたします。日本山岳会自然保護委員会の下野綾子と申します。
7月より自然保護委員長に就任いたしました。

過去2年間、コロナの影響で本部の自然保護委員会はほとんど活動できておらず申し訳ありません。
山岳環境の保全は推進すべき課題のため、活動を再開いたします。まず、山岳環境の変化を後代に伝えていくために冊子作りを行うことにいたしました。

各支部の毎年通っている山岳域、調査を続けている山岳域などで、昔と現在の写真比較ができる場所がありましたら、写真と、その写真に関する記事を募集いたします。各支部の記事をまとめて、120周年記念事業の一環として、2023年度に冊子を作成したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

下野綾子

依頼②

公益法人日本山岳会 各支部長 様

国土地理院対応 WG
委員長 宮崎 紘一

登山道における廃道および変化情報の提供について（お願い）

コロナ禍、みなさまにおかれては感染拡大に注意を払いながらご活躍のことと思います。

さて、日本山岳会は、登山道変化情報の提供について国土地理院と平成22（2010）年3月から協力協定を締結しております。

その後、スマホ等におけるGPSアプリの普及により、国土地理院は平成29年（2017）10月より一般登山者が利用するヤママップ、ヤマレコから得たトラックデータ、いわゆるビッグデータをもとに地形図の修正を進めておりますが、ビッグデータはあくまでも登山者の軌跡なので、廃道となった登山道や何らかの原因によって付け替えられている登山道はビッグデータには反映されません。

国土地理院は、これらの情報をいかに把握して地形図を修正させるかが課題となっています。

昨年12月、国土地理院を訪問したところ、廃道や登山道変化についてあらためて情報提供してほしい旨、協力依頼がありました。

そこで、貴支部の会員が登山中に廃道や付け替えられている登山道を目にした場合、これらの情報を当WGに提供いただきたくお願いいたします。

★依頼の詳細など不明な点は、自然保護委員長・横山秀司（yoko-hideji@ab.auone-net.jp）に問合せてください。

山行・行事のお知らせ

—2月—

● 九重中岳(1,791 ㍎)

～真っ白な中岳を目指しましょう。

凍った御池でツルっと一休み～

期 日 2月19日(日)

集 合 牧ノ戸登山口 午前8時30分

行 程 牧ノ戸登山口～沓掛山～中岳

～御池～牧ノ戸登山口

申込み 町元里香

✉ yunae.runa@icloud.com

Tel090-9572-6939 (SMS)

締切り 2月4日(日)

● 訓練登山「英彦山」(2月23日)

英彦山上宮修復工事による登山規制により中止します。

● 森林保全巡視後期活動

(犬鳴山 584 ㍎)

リーダー 横山秀司

日 時 2月25日(土)

集 合 犬鳴ダム駐車場

(司書橋に近い方) 8時集合

・国有林内の森林保全巡視活動を行います。

行 程 犬鳴山

犬鳴ダム登山口から犬鳴山往復

所要時間 3時間

申込み 三宅明子 Tel090-1510-1311

✉ akkorose.27@gmail.com)

ショートメール可

締切り 2月4日(日)

*森林保全巡視員以外の方も参加できます。

⑦西山(645 ㍎)までの縦走は取りやめましたので、ご承知おき下さい。

—3月—

● 諸塚山 3月5日 日本一早い山開き

主催者からの詳細 連絡待ち 担当塚本



木版画「梅の花」 伊藤久次郎作

◆◆ ポレポレ山行のご案内 ◆◆

*2月 高蔵山 357 ㍎

期 日 2月4日(土)

リーダー 田中眞一

集 合 アルク小倉東店 10時

小倉南区沼新町1-2-20

Tel093-474-0939

行 程 アルク(車移動)～

高蔵山森林公園～山頂～

資さんうどん(昼食) 解散

申込み 丹下洽 Tel090-3732-8843

締切り 1月20日(金)

*3月 火の山(268 ㍎) さくら観賞

期 日 3月24日(金)

リーダー 原 広美

集 合 火の山ロープウェイのり場バス停

(終点)

9時15分

※当日は近辺の駐車場はどこも満車なので、公共交通機関利用をお願いします。

JR小倉 8:16 発→門司 8:27 発→

下関着 8:34

※下関駅右側東口に出るとすぐバスターミナルがあり1番乗り場長府、才川方面

行 程 9時発 火の山ロープウェイ行きに乗車

1日1本のみ

下山は火の山ロープウェイ乗り場バス停

14時

昼食 各自持参

※体調悪い人はロープウェイ利用で下山してください。

申込み 丹下洽 Tel090-3732-8843

締切り 3月10日(金)

*4月 コバノミツバツツジの江汐公園

(えじょう) ウオーキング 及び宗麟寺龍心庭

期 日 4月13日(木)

リーダー 縄田 正芳

集 合 江汐公園第1駐車場(管理棟有り)

10時(山陽小野田市高畑)

山陽自動車道小野田ICより5分

行 程 駐車場10時→ツツジ山→

公園周回12時 昼食30分

→駐車場13時→宗麟寺(宇部市)

13時半 龍心庭見学 解散14時半

申込み 丹下洽 Tel090-3732-8843

締切り 3月30日(木)

会務報告

令和4年11月定例役員会
事務局

木版画「ネコヤナギ」伊藤久次郎作

- 1 日 時：令和4年11月9日(水)
18時より
- 2 場 所：北九州支部ルーム
- 3 出席者：日向、丹下、竹本、榊、縄田、町元、
三宅、横山、清家、馬場、関口
欠席者：塚本
- 4 議 題
 - (1) 会員の異動状況(事務局長報告)
 - ①新入会員：
 - ・通常会員：野副 勇
 - ・準会員：なし
 - ・支部友：渡辺弘明、堀内博史、赤間啓史
久保正志、將口晋司、綱川和幸
田和瀬 修
 - ②退会者：
 - ・通常会員：なし・準会員：なし
 - ・支部友：金子 聡、三浦義人、木戸恵理
 - 通常会員：55人 準会員：0人
支部友：36人 会友4人 合計95人
(2022.11.09現在)
 - (2) 会費納付状況 未納者
(財務委員長より報告)
 - ・通常会員：3/54・支部友：4/32
 - ・会友：なし
 - (3) 山行・行事報告
 - 9月11日(日) 三郡山 6人
 - 9月17日(土)
山岳古道調査求菩提山 延期
 - 9月24日(土) 支部合同会議 延期
 - 9月25日(日) 陶ヶ岳岩登り 7人
 - 10月 2日(日)
阿蘇(高岳・中岳) 12人
 - 10月 8日(土) 平尾台ボランティア
セイタカアワダチソウ外来駆除 13人
 - 10月 9日(日)～10日(月)
第3回指導員研修会(蒜山) 6人
 - 10月15日(土)
山岳古道調査求菩提山 4人
 - 10月22日(土)～23日(日)
広島支部交流会 18人
 - 10月23日(日)～24日(月)
岐阜支部50周年交流会 1人
 - 10月30日(日) 榎有恒碑前祭 31人
 - 11月 3日(木)
宮崎支部ウエストン祭 1人
 - 11月 5日(土)～6日(日)
広島支部25周年交流会 7人

- (4) 山行・行事計画
 - 11月12日(土) ブラヒデジの登山
平尾台登山兼監視パトロール
 - 11月19日(土)
山岳古道求菩提山 2回目調査
 - 11月20日(日) 国東ロングトレイル
紅葉登山(バスハイク)
 - 11月30日(水) 臨時役員会
 - 12月 3日(土) 年次晩餐会 支部合同会議
 - 12月10日(土)
忘年の集い・忘年登山許斐山
 - 1月22日(日) 難所ヶ滝・三郡山
 - 1月29日(日) 第4回指導員研修会
- (5) ポレポレ会
 - 9月15日(木)
鰐鳴八幡宮ポレポレ山行 7人
 - 10月16日(日)
弥山岳ポレポレ山行 12人
 - 11月13日(日) 求菩提山ポレポレ山行
 - 1月 7日(土) 門司三社参りポレポレ山行
- (6) サロン
 - ・小倉サロン 日時：2月2日(木)
 - ・博多サロン 日時：2月9日(木) 場所未定

審議事項

- (1) 忘年の集いと忘年登山について
- (2) 本部自然保護委員長よりの依頼について
- (3) 次期役員選考について

審議事項検討結果

- (1) 忘年の集いと忘年登山について
 - ・忘年登山 許斐山(271 ㍎)
12月10日(土) 締め切り11月27日
担当 縄手 修(Tel080-8733-2738)
 - ・忘年の集い 宗像王丸、天然温泉やまつばさ
締め切り 11月27日
担当 三宅明子(Tel090-1510-1311)
- (2) 別添資料参照
 - ・担当 自然保護委員長 横山秀司
(Tel090-9609-7721)
- (3) 次期役員選考について
 - ・11月30日(水)に役員で再審議を行う
- (4) ラムサール活動については県が動いていない
ようなので
高校の先生も異動で活動していない。
- (5) 北九州支部ルームの大掃除
 - ・12月26日午前10時より行います。
会員の参加をお願いします。

次回役員会 1月11日(水) 18:00

★★ 会員の異動・お知らせ ★★

<入会者> (令和4年9月～令和4年11月)

通常会員 116990 野副勇 (北九州市門司区)

支部友 北九 537 渡辺弘明 (北九州市門司区)

北九 539 赤間啓史 (飯塚市)

北九 541 將口晋司 (北九州市門司区)

北九 543 田和瀬修 (北九州市小倉北区)

北九 538 堀内博史 (嘉穂郡桂川町)

北九 540 久保正志 (北九州市小倉北区)

北九 542 綱川和幸 (山口県長門市)

<退会者> (令和4年9月～令和4年11月)

支部友 北九 517 木戸恵理 北九 503 金子聡 北九 527 三浦義人

小倉サロンのご案内

日 時 2月2日(木) 17時半から

場 所 居酒屋「コール天」

内 容 ビデオ鑑賞後に懇談会

予 算 ￥3,000

連絡先 清家幸三 TEL090-8664-4411

(ショートメールにて1週間以前まで)

本年度最後のサロンです。

沢山の参加でにぎわいたいと思っています。

ご理解の程お願いします。

※上映するビデオは、昨年12月3日東京で

開催された「令和4年度年次晩餐会」の様

と4日のアルピニズムクラブのもみじ狩りハ

イク(大山寺)の最新記録を上映します。

博多サロンのご案内

日 時 2月9日(木) 18時半から

場 所 博多 つつじ庵(092)474-2241

福岡市博多駅前3-4-8

サットンホテル地下1階

会 費 ￥4,500(飲み放題付)

申込み 三宅明子(Tel090-1510-1311)

SMS可

締切り 1月31日(火)

・博多サロンは2月、5月、8月、11月の
木曜日の実施を基本とします。・4名以上で予約できるコースで予約します。
早めに申込みをお願いします。・当日参加、当日キャンセルは不可とさせて頂
きますので、ご了承ください・新型コロナウイルスの感染状況により中止す
る場合があります。北九州支部会員 平野喜義のお店です
支部会員1ドリンクサービス

北九州市小倉北区中井5-16-33 パスタ、ピザ、肉魚

営業時間 11:00～1500 電話 093-591-4355

17:30～22:00

定休日 日曜日 山行の計画、懇親会は当店で

